

を如何に左右したか。教師がこの... 時にはVに関する教
 身の研究法に大いに影響を及ぼすことであろう。教師が両親と話す時
 は屢々子供に対する彼等の熱望を現わすものである。子供への期待、要
 求等を示すものである。彼等は又、子供は如何なるもので、如何に行動
 するかに関して、彼等独特の考えを示すものである。これ等の熱望期待
 は、子供に絶えざる圧力を及ぼしている。子供に対する両親の人間像
 は又、確かな方法で或る行動仕方を繰返す様に、いつも子供に暗示を及
 ぼすものである。双生児の場合すら各人への異なつた期待がその行動に
 影響を及ぼしたと云う事実の研究は、教師にとつて甚だ有益である。D
 の両親を訪ねた教師の報告は、新しい現実的な *image* を受けることが
 如何に困難なるかを示している。

3 児童取扱いの両親の技術

家庭訪問に依り、両親の子供の取扱い方を伺う事が出来る。その子供
 の訓練仕方について、強い確信を持つている両親は多いものである。そ
 の一つは両親自身がかつて訓練された方法とは、自分の子供に反復せん
 とする場合であり、他の一つは之と全く反対の処置を取る場合である。
 何れにせよ両親は、常に彼等の希望通り子供達を行動させようとする時
 別な技術を用いるが、この両親の方法を理解すること、子供達の行動の
 原因が分かる場合が多い。Dの嘘つきは、家庭でひどく鞭打たれている為
 に、仰り話に依つて之を避けんとしたものと想われた。そこで教師は、
 Dが自分とは友人として受け入れ、信頼する様に努め、又母にはDを鞭
 打たないで他の方法がある事を知らせる為努力した。

4 家庭内の個人的諸関係

家族の様な社会単位に於ては、成員相互は深く情緒的に結ばれて居り、
 各人は相互に深く作用し合つていゝ。この特別な型を理解するにも、
 又家族の意義を知る為にも、通例長い時間と多方面の情報を必要とす
 るのであるが、児童研究グループの教師等は、之に対し可成の進歩を
 示している。例えばLは学校で話をしないが、家庭訪問の結果その原
 因は、沈黙以外に対抗仕方もないと言つた場面への、初期の適応仕方
 の反復であることがわかつた。即ち母や妹の要求に対して、父と共同
 戦線をはつた時に、習得された型の反復であつた。この事はLに安心
 感を与え愛情を爪すことが、教師の第一手段たることを教師に知らせた。

5 家族の生活様式

家庭は夫々生活様式を興にしていて、生活程度の低いものも高いものもある。そして教師は後者の場合に彼等自身が親しんでいる為、後者に好感を抱きがちであるが、此の際生活程度の高い家庭の児童をも価値ある人間として最上の養育を遂げるよう助けてやらねばならない。

6 家庭問題のもたらす意義

家庭内には時に死亡、出生、重病、失業、または一寸したいさかいとか親戚の訪問等々大小様々の事件が起るものである。子供等はそれに様々に影響され、彼等の反応は、逆に又両親兄弟姉妹に影響する。教室内の児童の行動はかかる結果としていろいろと変化するのである。例えば教師はMの母を訪問して赤坊の誕生が子供達の感情安定に脅威を与えている事実を理解した。家庭と教師との密接な連絡を保つことに依つて子供達の行動の変化を、よりよく理解し、正しい指導を与えその発達を促進することが出来るのである。

III 要 約

本章は子供を家庭の一員として理解する為、教師が取った最初の歩みを述べている。吾々が指摘したい事は

- (1) 教師はどんな報告を重要だと考え、又記録進行につれて、どんな重要な意義を持つに至ったか。
- (2) 教師と両親とは、子供に共通の関心を抱いて、親密な関係を結び、両親の心配偏見等を知り、それが子供に如何に影響しているかを知り得た。
- (3) 両親は子供にどんな期待、要求を持ち、子供の取扱い方にどんな方法を用いて居るかを理解せんとした。
- (4) 教師は、家族の各人格は相互に形成し合うもので、愛情は安定感と争いは不安や敵対心を惹起するものであることを知った。
- (5) 教師は、家族の性格を形成する色々な習慣、風習を客観的に研究せんとした。
- (6) 教師は、家庭内の大小の危機に起因する教室内での子供の行動の変化に感受性を高められた。
- (7) 児童研究の面からして最も重要な結果は、両親と教師が相互に知り合い尊重し合うことを学び、少年少女の取扱いの共通の目的に向つて互に依り合っていることを知つたのである。

(第一分冊・終)

IFEL hand book No 4

"Suggestive books for guidance"

The names of the suggestive books for
guidance in English and Japanese.

A suggestive ^{books} way for guidance

CCDEF・資料NO.4

生徒指導の参考書

第五回 IFEL 教育指導班編

The 5th IFEL guidance group.

To Osu Upper S. S.

大洲高等学校 内
児童発達及教育指導共同研究会

著者	書名	価格	発行所
永井 光吉	ガイダンス	110	河出書房
菅野 幸吉	ガイダンスシリーズ 精神衛生	130	学芸図書出版社
香川 敏四郎	精神発達期及中間児童 — その心理と教育	200	壯文社
今井 亮	ホーム・ルーム	150	学芸図書出版社
船橋 聖一	ガイダンス・ハンドブック	220	明治図書
船川 三郎	新しい子供の養育法 — 子供の書 —	80	日本講談協会
船垣 友英	ホーム・ルーム活動	240	明治図書
石山 幸平 共他共著	小中学校 指導・評価・記録	100	原書房
石田 博美	忘れられた子供たち	180	新紀元社
岩本 岩次郎	弱い子供の体育指導	150	牧書房
牛島 真友	不良化傾向の早期発見 — 性格の評価尺度と検査法 — 教育のための標準検査 (教育研究所研究シリーズ)	130 450	金子書房 同
牛島 真友	性格と社会性の検査	250	巖松堂
尾花 克己	特別教育活動 (新制中学校管理叢書)	170	神代教育研究会
大橋 武夫 共他共著 ラックスター	ガイダンスの技術 — 実践的指導の手引き・記録・批評	各380	同 考 社
岡村 忠雄	ホーム・ルーム経営	200	同
金子 福市	ホーム・ルーム (カリキュラムシリーズ)	130	談文堂新光社
教育実践研究会	習察・参加・実習 — 新しい教師のための実践講座	40	学芸図書
同	指導 — 新しい教師のための指導講座	95	同
同	成長と発達	170	同
教育公論協会	児童指導要録の記録実践	140	明治図書
教育公論編纂部	新しい指導法	170	同
桐原 薫児	意欲気質検査の手引	40	福村書店
北岡 健二	生徒指導の計画	350	明洋図書
北岡 健二 水谷 清夫	中学校高等学校における新指導法の解説	140	原書房
清田 清二 共他共著	ホーム・ルームの記録 (東京日比谷高校)	250	学友社
倉富 果人	強く育てる生活指導	130	大阪書籍
同	子供を生かす学級指導	130	談文堂新光社
小見山 栄一	ガイダンス — 指導の理論と方法	180	金子書房
小山 玄夫	学習生活とガイダンス	120	牧書店
後藤 岩男	児童理解の方法	250	世界社
同	児童観察の理論と方法	350	日黒書店

俊藤 岩 男	異常児の記録	20	雄弁合情談社
俊藤 岩 男	教育評価法 (新教育叢書)	150	研習教育研究会
近藤 益 雄	子供と生きる 一教師の実験記録一	145	牧書店
小杉 望	職業指導 一職業の選定と進学指導	130	学生図書
小山 立 夫	生活学級の経営 中学校用ホームルーム実践誌	160	牧書店
斎藤 一 男	健康教育	360	新制教育研究会
坂本 一 郎	児童の生活と教育	200	牧書店
霜田 謙 思	相談に現れた子供の問題	150	組合書店
清水 晴 夫	生活学級の経営 ホームルーム実践誌	200	牧書店
下田 光 造	精神衛生講話	200	岩波書店
杉山 稔	生活学級の経営 ホームルーム実践誌	160	牧書店
鈴木 治 六郎	実証的個別知能測定法	380	東洋図書
田中 亨 一	田中B式智能検査決定版	20	福村書店
同	B式智能検査法指針	280	同
同	田中B式智能検査の索引	40	同
同	田中A式一式智能検査法	300	世界社
同	新訂版教育的統計法	450	金子書房
同	田中B式智能検査検査帳	100	福村書店
中学教育研究会	特別教育活動の理論 (新制中学ノート第三集)	50	学校図書
土屋 潤 身	生徒会 (新制学校管理叢書)	230	研習教育研究会
東京教育大学附 教育学研究部編	教育大学新庄18 生活指導	280	金子書房
東京教育大学附 児童研究会編	児童問題新書3 ホームルーム	160	同
東京文理大 教育心理学会編	中学校高等部、初等部、特別部	200	同
同	現行智能検査法一智能測定理論と方法	250	同
同	小学校新学級の記入法	160	同
東京文理大 児童研究会編	児童研究法 (児童心理叢書)	250	同
同	児童の行動と発意	上巻270 下巻260	同
同	教科の心理	380	同
同	特殊児童の心理	210	同
同	児童の社会生活	300	同
同	生活指導と性格教育	240	同
東京大学 教育学部編	講座学校教育第六巻 学習指導の方法	250	目黒書店
東京大学 教育学部編	中学校ガイダンス実践	380	同学社
東京女子大 教育学部編	小学校ガイダンス実践	150	明治図書

東京一師 女子師範小	新しい指導と批評	180	明治図書
高永正	ホーム・ルームの運営	280	新出版研究会
戸川行男	性格の類似	280	金子書房
同	特異児童	200	目黒書店
清川道夫	こどもの読書指導	250	国土社
奈良女子師範 中等教育研究会	奈良アラン ホーム・ルーム	320	東洋図書
中野佐三	児童の思考心理	250	金子書房
中野佐三 佐藤三男 渡辺三夫 清川道夫	学習心理学——原理と指導	300	世界社
同	生活学校の諸活動	180	牧書店
財団法人協栄会	アメリカに於けるガイダンスと個性調査	120	明治図書
日本教育大学協会	生徒指導研究手引	非売品	日本教育協会の
二階堂高好	中学校ガイダンス	240	明治図書
西村伊作 大場隆三	学生と性教育	140	建設社
波多野勤子	少年期	280	光文社
平松秋夫	ガイダンス概論	260	同学社
堀重三	ホーム・ルームガイダンスプログラム	150	教育タイムス
同	ホーム・ルームシステム	75	同
同	無教育の実際		
松岡スチロ (ハールバック原著)	母と嘆く女がル	120	法政大学
松中茂	ガイダンス	150	学芸図書
松中順之	考査法とその活用	130	有朋堂
前田健男	ガイダンスの理論と実際	140	明治図書
同	グループガイダンス	120	辰書房
同	モラルガイダンス	180	明治図書
宮坂哲文	新教育の展望——ホーム・ルームの研究	150	財団法人教育研究所
同	特別教育活動——市民協会の学校の計画	270	明治図書
宮原誠一	教育と社会	240	金子書房
宮山平八郎	教育と道徳、素質と環境	280	明治図書
三好稔	ガイダンスの理論と実際	150	黎明書房
宣田昂	教育入門、若き教師とともに	180	同学社
文部省	児童の理解と指導	144	学芸図書
同	小学校経営の手引	243	同
同	新しい中学校の手引	681	明治図書

文 部 省	中学校高等学校管理の手引	819	教育研究センター
同	中学校高等学校の生徒指導	95.8	日本教育研究会
同	保育要領—幼児教育の手引	15.5	保育教育研究社
同	教育心理	120	学芸図書
寺 田 保	個性調査とガイダンス	300	東洋図書
山 崎 正	問題児の診断と指導	150	学芸図書
吉 村 忠 幸	生徒指導の技術	350	北海道教育図書
横 山 美 智 子	伸びゆく子供 若く母と教師に贈る	120	明治図書

A brief bibliography for those who wish to be will informed regarding the application of mental hygiene principles to classroom living and learning.

I CHILD DEVELOPMENT AND THE CURRICULUM

Arthur T. Jessild.

Bureau of Publications, Teachers' College Columbia, N.Y. 1946

II CHILD DEVELOPMENT

Willard C. Olson

D. C. Heath and Company, Boston 1949

III INDIVIDUAL BEHAVIOR

Donald Lynn and Arthur W. Combs

Harper and Brothers, N.Y. 1949

IV HANDBOOK OF CHILD GUIDANCE

Ernest Harms

Child Care Publications, N.Y. 1949

V CHILD CARE AND GUIDANCE

Goodspeed, H., Masen, E., and Woods, E.

Rippincoff, 1948

VI ELEMENTARY EDUCATIONAL PSYCHOLOGY

Skinner and Diers

Prentice-Hall, Inc. 1950

VII THE CHILD FROM FIVE TO TEN

Gesell, Arnold and Frances L.

Harper and Brothers, N.Y. 1946

- VIII THROUGH CHILDRENS EYES
Weill, Blanche C. Island Workshop Press.
- IX HELPING TEACHERS UNDERSTAND CHILDREN
Staff of Division of Child Development
and Teacher Personnel.
American Council on Education
Washington D.C. 1945.
- X AS THE CHILD GROWS
Pryor, Helen Brenton
Silver Burdett Co. Chi. 1943.
- XI HOW TO STUDY THE BEHAVIOR OF CHILDREN
Driscoll, Gertrude
Teachers College, Columbia Univ. 1941.
- XII CHILDREN HAVE THEIR REASONS
Washburn, Ruth Wandell
D.Appleton Century 1943.
- XIII CHILD PSYCHOLOGY
Morgan John J. B.
Prentice Hall. Inc. 1942.
- XIV MEETING SPECIAL NEEDS OF THE INDIVIDUAL CHILD
XIXth Yearbook, Dept. of Elementary School
Principals NEA 1940.
- XV PARENTAL AUTHORITY AND CHILDRENS' BEHAVIOR
Radke, Marian T.
University of Minnesota Press. 1946.
- XVI PLAY THERARY
Azline, Virginia Mae
Introduction by Carl Rogers Houghton
Mifflin Company 1947.

XVII FOSTERING MENTAL HEALTH IN OUR SCHOOLS

1950 Yearbook of the Assoc. for
Supervision and Curriculum Develop-
ment, NEA, 1201, Sixteenth St., N.W.,
Washington 6 D.C.

XVIII A BASIC TEXT FOR GUIDANCE WORKERS

Erickson, Clifford, 1947.
Technical and geared to upper secondary
schools and colleges.

BEHAVIOR PROBLEM CHILDREN A BRIEF BIBLIOGRAPHY

I INTRODUCTION TO EXCEPTIONAL CHILDREN

Baker, Harry L. Ph.D.
Macmillan Company, N.Y. 1944.

II CASE HISTORIES IN CLINICAL AND AB-
NORMAL PSYCHOLOGY. M

Burton, Arthur and Harris, Robert E.
Harper and Bros., 1947.

III HELPING TEACHERS UNDERSTAND CHILDREN

Commission on Teacher Education.
American Council on Education, Washington,
D.C., 1945.

IV THE PSYCHOLOGY OF BEHAVIOR DISORDERS

Cameron, Norman, M.D., Ph. D.
Houghton Mifflin Company, 1947.

V JUVENILE DELINQUENCY AND THE SCHOOLS

Forty-seventh Yearbook, Part I, National
Society for the Study of Education, 1948.

- VI CRIMINAL YOUTH AND THE BORSTAL SYSTEM
Healy, William and Alper, Benedit S.,
Commonwealth Fund, N.Y., 1947.
- VII CLINICAL PSYCHOLOGY OF CHILDREN'S BEHAVIOR
PROBLEMS
Louttit, C.M.
Harper Bros., 1947.
- VIII PLANNING SCHOOLS OF TOMORROW NEEDS OF
OF EXCEPTIONAL CHILDREN
Martens, Elise H.
Leaflet No. 74, U.S. Office of Education
Washington D.C., 1944.
- IX PROBLEMS OF THE CHILD DELINQUENT.
Merrill, Maude, Ph.D.
Houghton Mifflin Boston, 1947.
- X THE SUBSTANCE OF MENTAL HEALTH
Prestibin /George.
Rinchart and Company, N.Y., 1938.
- XI MENTAL HEALTH THROUGH EDUCATION
Ryan, Carson
The Commonwealth Fund, N.Y., 1943.
- XII CORRECTIVE TREATMENT FOR UNADJUSTED
CHILDREN
Schools, N.E. and Goldberg, George.
Harper Bros., 1942.
- XIII THE MEANING OF INTELLIGENCE.
Stoddard, Geoge D.
Macmillan Company. N.Y., 1943.
- XIV THROUGH CHILDREN'S EYES

Weill, Blanche C.
Island Workshop Press, N.Y., 1940.

XV PSYCHIATRIC INTERVIEWS WITH CHILDREN

Witmer, Helen L. (Ed)
The Commonwealth Fund, N.Y., 1946.

BIBLIOGRAPHY ON MENTALLY RETARDED CHILDREN BOOKS

I EDUCATION OF THE SLOW-LEARNING CHILD

World Book Co., 1935
Ingram, Christine P.

II FOSTERING MENTAL HEALTH IN OUR SCHOOLS

1950 Yearbook of the Association for
Supervision and Curriculum Development
N.E.A., 1201 Sixteenth St., N.W.
Washington 6, D.C.

III INTRODUCTION TO EXCEPTIONAL CHILDREN

Baker, Harry T. -Macmillan. 1944.

IV MENTAL HEALTH THROUGH EDUCATION

Ryan, Carson, Commonwealth Fund N.Y. 1938.

V TEACHING READING TO SLOW-LEARNING PUPILS

Kirk, Samuel A., Houghton-Mifflin Co., 1940.

VI TEACHING READING TO SLOW-LEARNING PUPILS

Gates, Arthur I. and Pritchard, Marian C.
Teacher's College, Columbia University
1942 (65 pages)

VII MENTAL DEFICIENCY

Tredgold, A.F.; M. C.D.
F.R.S. ed., Wm. Wood & Co., N.Y. (5th Ed.)
1937.

~~MENTAL~~ ARTICLES IN PERIODICALS

I AN EVALUATION OF THE STUDY OF BERNARDINE SCHLIDT

Kirk, Samuel A., --Journal of
Exceptional Children, Nov., 1948.

II DEVELOPING READING POTENTIALITIES OF
HIGH SCHOOL STUDENTS --Strang, Ruth.

Teachers' College Record, Columbia, Vol.
XXXVIII. P. 468. March 1942.

III EDUCATION OF EXCEPTIONAL CHILDREN
AND MINORITY GROUPS

American Educational Research Association,
1201 Sixteenth Street N.W., Washington, D.C.
--Review of Educational Research, Vol. XIV,
No. 3, June 1944.

IV GOOD BOOKS FOR SLOW READERS

Heyerdahl, Tordis M.,
The training School Bulletin, 40:
November, 1943.

V DOES SPECIAL EDUCATION RESULT IN
IMPROVED INTELLIGENCE FOR SLOW
LEARNERS?

- Hill, Arthur, Journal of Exceptional Children, April 1948.
- VI THE SUBNORMAL CHILD 9-SEVENTEEN YEARS AFTER
Fairbanks, R.F., Mental Hygiene, Vol. 17,
1933 (Quarterly)
- VII TEN YEARS WITH SLOW READERS
Fondow, Beryl --English Journal, Vol. XXX
P. 573, Sept., 1941.
- VIII THAT ALL MAY LEARN
Dadds, B.L. -- The Bulletin of the
National Association of Secondary
School Principals, Vol. XXXIII, No. 25.
- IX THE BINET PUPILS GOT A CHANCE
Kones, Leon --School and Society,
April 10, 1948.
- X THE GREYER SCHOOL FOR SLOW-READING
CHILDREN
Featherstone, W.S. --Teachers'
College Record, Columbia, Vol. XXXVIII
No. 5, Feb., 1937.
- XI TRAINING SCHOOL BULLETIN
Heyerdahl, Todis A., Vol. XXXIX,
P. 137, Nov., 1943.
- XII WHAT ABOUT SLOW LEARNERS?
Stein, Louis --Sierra
Educational News, Dec., 1947.
- XIII PERSONALITY DEVELOPMENT AND SOCIAL
ADJUSTMENT OF MENTALLY RETARDED CHILDREN
Martin, Harry Frances, American Journal
of Mental Deficiency 46: 94-101, July,
1941.

- XIV EDUCATION OF EXCEPTIONAL CHILDREN AND
MINORITY GROUPS
Review of Educational Research
Vol. XIV, No. 3, June, 1944.
- XV SELECTED REFERENCES FROM THE LITERATURE
ON EXCEPTIONAL CHILDREN
Robinson, Helen, and Christine Ingram
The Elementary School Journal,
University of Chicago, May, 1947.
- GIFTED CHILDREN: A BRIEF BIBLIOGRAPHY
- I INTRODUCTION TO EXCEPTIONAL CHILDREN
Baker, Harry I. Macmillan Co., New York
1944.
- II FAILURES OF HIGHLY INTELLIGENT PUPILS
Conklin, Arnes M. Contribution to
Education No. 792, Teachers' College,
Columbia University, N.Y., 1940.
- III STANFORD-BINET RETESTS OF GIFTED CHILDREN
Hildreth, Gertude. Journal of
Educational Research 37: Dec., 1943
- IV CHILDREN ABOVE 180 IQ.
Hollingworth, Leta S.
World Book Co., N.Y., 1942.
- V CASE STUDIES OF NEGRO CHILDREN OF
BINET IQ 160 AND ABOVE
Jenkins, Martin D. --Journal of
Negro Education 12, April, 1943.
- VI SOME CHARACTERISTICS OF VERY SUPERIOR
CHILDREN
Lewis, W. Drayton and McGehee, William
Journal of Genetic Psychology 62, June, 1943

- VII CLINICAL PSYCHOLOGY OF CHILDREN'S BEHAVIOR PROBLEMS
Louttit, C.M. --Harpers Bros. 1947.
- VIII STEPLADDERS GO BOTH WAYS
Pregler, Hedwig O. --The Clearing House, May, 1947.
- IX INTELLIGENCE AND DEVIATION
Serman, Mandel. --Ronald Press, N.Y., 1945.
- X THE MEANING OF INTELLIGENCE
Stoddard, George D. --Macmillan Co., N.Y., 1943.
- XI THREE HUNDRED GIFTED CHILDREN
Sumption, Merle R. --World Book Company, N.Y., 1941.
- XII GENETIC STUDIES VOL. I, MENTAL AND PHYSICAL TRAITS OF A THOUSAND GIFTED CHILDREN
Terman, L.M., et al. --Stanford University Press, 1925 (also Vol. II and III)
- XIII CORRELATES OF ADULT ACHIEVEMENT IN THE CALIFORNIA GIFTED GROUP
Terman, L.M. and Oden, Melita .
Yearbook of the National Society for the Study of Education, Vol.39, Part I.
PP. 67-89. 1940.
- XIV THE GIFTED CHILD GROWS UP
Terman, L.M. and Oden, Melita.
Twenty-five years; Follow-up of a Superior Group. (Vol. IV, Genetic Studies of Genius.)
Stanford University Press, 1947.

XV A FOLLOW-UP STUDY OF THE EDUCATIONAL ATTAINMENT OF GIFTED NEGROES.

witty, Paul and Theman, Viola.
Journal of Educational Psychology, 34,
January, 1943

Comiled by

Elizabeth L. Woods.

INTRODUCING CLASSROOM MATERIALS

1 APPRECIATION

"Wisdom in the principal thing; there--fore
get wisdom; and with all they getting get
understanding." --Proverbs 4:7

~~MEM~~

2 Co-operation

"For we are made for co-operation, like
feet, like hands, like eyelids, like the
rows of the upper and lower teeth."

--Marcus Aurelius.

3 Courage

"There is no misfortune, but to bear it
bravely is good fortune."

--Marcus Aurelius.

4. Faith

"Faith is the farce of life."

--Leo Tolstoy.

5. Generosity

"The wise man does not lay up treasure.
The more he gives to others, the more
he has for his own."

--Lao Tsze.

6. Good Will

"Glory to God in the highest, and on earth
peace, good will toward men."

--Luke 2:14

7. Honesty

"And ye shall know the truth, and the
truth shall make you free."

--John 8:32

8. Kindness

"The heart benevolent and kind
The most resembles God."

--Robert Burns.

9. Loyalty

"Broadly I salute the flag of the United
States of America and treasure the ideals
for which it stands; liberty and justice for all."

--Aaron Metchik.

10. Respect for Law

"Let reverence for laws be breathed by Every American mother to lispng babe that prattles on her lap; let it be written in primers, spelling books and in almanacs; let in be taught in schools, in seminaries, and in colleges; let it be preached from the pulpit, proclaimed in leg --islative halls and enforced in courts of justice."

--Abraham Lincoln.

11. Responsibility

"Liberty means responsibility. That is why most men dread it."

--G.B. Shaw.

12. Reverence

"O come, let us worship and bow down, let us kneel before the Lord our maker."

--Psalm 95:6

IFEL handbook

"How to understand children"
2

Guide for theory and practice

4. Advices by a psychologist

Utilization of an anecdote record
Cooperation of teachers(counselor)
with a psychologist

Case study

5. How a child is growing.

Childhood to adolence
The society gives influence upon
the acts of a child.
Lack of love
Study of fantasy
A case study.

IFEL Handbooks

How to understand children

児童を²理解する

には

2

guide for theory and practice

理論と
実際への
手引

第
二
分
冊

OCCDEG

第四章 心理学者の助言

カリキュラムの改訂や教育評価、児童研究などをすすめる場合、学校管理者や視学がいつも犯しがちな過失としては仕事の目的を知らせて「相当長期に亘る熱心な研究を教師達に要求することである。我々の児童研究にもこの傾向があり、この計画について参加者全部が始めに参加したものの、前人未踏の研究であるだけに最初の数年間メンバーは誰もその目的を完全には呑み込んでいなかった。

メンバーの大多数の者は研究開始後数ヶ月にして既に逐話記録を取るのに倦いて「一体こんな事をやって何が役に立つのだろうか。又どこまでやるつもりか」「この記録は子供に対してどうもなし得ないで「はないが」といった不平を指導者意に渡した。研究参加者達が逐話記録が児童研究に不可欠のものであることを当初に十分徹底させられていたならば以上の如き意欲の喪失は防がれたであろうと思う。

I 児童研究プログラムの本質的課題

児童研究に必要な多数の課題の中で是非解決を要するものが四つある。その中の三つは教師側の問題で、一つは指導者側の問題である。

- 1 ある子供の特殊事実こそその動機付けや行爲を説明する心理学的原理を示す道標なることを知ること。この事実を知りぬため、教師達は逐話記録を取ることに倦き、子供について更に情報を集めることに興味を失うのである。
- 2 子供について考えた最初の結論は一時的の仮説として進行すること。教師は仮説は常に暫定的のものであり一つの資料が更に他の資料を必要とする如く情報を求めて行くことによつてのみ児童研究の逐話記録に興味が出るものである。
- 3 教師はその逐話を説明してくれる心理学的原理を把握しなければならぬこと。
教師は人間の発産動機付け、行爲及び学習に関する自分の知識を補足することによつて初めて逐話記録の説明が出来る。
- 4 顧問 (consultants) とか指導者 (local leaders) は現場の教師達に不安を持たせぬこと。教師達はその逐話記録の価値に乏しい事を指摘すれば且個人的標準で児童を判断してはならぬと注意されたためにこの新

しい教育活動に不安を感じ少からず混乱を来すものである。この不安と焦燥に激励と慰藉を与えて教師達の不安を軽減することが顧問と指導者の任務である。

II 作業の計画

研究開始の当初に顧問たる心理学者と現場の教師達と種々の問題処理について話合つて後この計画で二ヶ月間研究が進行したがこれを要約すると次の如くなる。

- 1 始めに教師の通話記録を基礎として発表する。
- 2 数人が定期的に通話集録を心理学者に郵送する。
- 3 心理学者は専門的立場からこの事実や通話についての意味を説明批評して返送し且つ行爲についての仮説を書き加え更に必要な観察と資料に関する注意助言を与えておく。
- 4 この批評と注意は教師達に往々派く研究せられる。これは後にはグループの全体会議にかけられ始めの二ヶ月間の事例研究において大いに得るところがあった。

III 事例研究

次に事例研究の例に於て資料を心理学的原理から見ること、あらゆる説明は仮説であること、教師の不安を軽減すること等に心理学者の努力が捧われていることに注目せられたい。

少年Cの事例

1 Cの通話記録

(1) 前書き

Cは10才の4学年である。活潑でめづるに議論せぬ。委員としての仕事には積極的である。引当思案らしく思われる。彼の母は学校に協力的でTAAによく参加する。

(2) 通話記録

10月24日 絵の時間の後で道具を洗うという級の申合を破つた。後で独りで道具を洗つた。話したがっているのだがすらすら会話が形lessなようにしてやりたい。

10月28日 教室の隅に博物館を作るために古板を持って来ることになつてしたが学校へ来ると他の者が持つて来た板で仕事を始めAが自分の板を持って来る筈だと言つた。他の

母親からの話で嘘だと分かった。何故は嘘を言うのだらうか。嘘を言つてまでも働きたいのか。

10月31日 今日アメリカの初期の民族の家庭生活についてすらすらと話した。初は本当に内気であろうか。

11月4日 Cの母に面会しよう。その前にCの興味について話し合つて見よう。放課後喜んで遊ぶ。家人が嫌がるので夕方遅くまで遊んだ時はひどく気がとがめたと云つた。

2. 顧問の回答

「君の記録には一つの主題があるのはよくない。即ちCは引込み親業の子という考えを持つことである。我々は子供の全体を見なくてはならない。又色眼鏡で見てはならぬ。Cがどんな子供であるか判断出来ないと云つて心配するな。行爲についての解析が出来ぬのは君の責任ではない。もつと観察しているとその内に明らかになつて来る。

Cに話す機会を作つてやることはよいことだ。然し無理に押しつけてはいけぬ。母にもCにも内気ということをも過度に心配させてはいけぬ。」

3. 顧問の仕事

- (1) 教師に安心感を与えること。
- (2) 自信を持つように導くこと。
- (3) 身分上の不安を去るよう絶えず配慮すること。
- (4) 教師に対し次に必要な資料に関する指導や助言を与えること。

4. 通話記録記述上の注意事項

概括的叙述を避けること。

記述は抽象的でなく、具体的であり、ある特殊の場合に於てその子供がなしたそのまゝの行爲や会話の引用がのぞましい。

第五章 説明原理の学習

研究グループの最初の集会で多数の参考書、研究論文の読破についてはいろいろと不安、危機が起つたので、先づ学級児童の理解の爲の範囲内でやることにした。前章で人間の発達行動の説明原理要求の気持が教師に生じて来る過程を述べた。即ち児童理解の爲には、

- (1) 個々の児童に関する知識
- (2) 多数児童の科学的研究の集結たる概括や解釈上の諸原則に関する知識が必らずとらえられ、教師達は指導主事の助言、研究結果の報告、談話等を行うに至った。

Ⅰ 児童期より青年期へ

一教師が持つて来た少年マードについての記録を中心に研究グループは種々討議した。

- (1) 怠惰で不注意である。
- (2) 授業中も身を入れて学習しない。
- (3) いつもソワソワしている。

時がその記録の要約であるが、これについて提議された諸仮説も不満足なものだったので心理学者に「青年期」に関する講義をしてもらい且方法的助言を受けた。此中で「児童が同一学年であり乍ら同一特徴を示すのは何故か」という疑問が生じたが、心理学者はこれについて「身体的発達には個人差があり、男女の差は女子が一二年成熟が早いこと、思春期に達する年齢は男女六五年の差があること」を説明した。問題は更に発展して、成長に遅延の生じる理由——その原因たる成長周期の問題研究——その原因たる内分泌腺の問題にまで及び個々人の成長のグラフ化が大切なこと等がわかった。

Ⅱ 文化的諸要因の影響

児童の人格形成に及ぼす文化的要因の研究のために、研究グループは、Allison Davis John Dollard: *Children of Bondage* を読み、特定の社会集団の習慣、生活態度が人格形成に非常に影響を持つこと、従つて児童の特徴的行動はその歸属する社会集団の生活、態度を反映していることを学んだ。

十六才の少女Dに関する行動記述

家庭は貧乏で父も元も病身なので母一人で一家を支えている。一本の鉛筆と紙にのみ生活し、状況は悪い。お寺や仏の為によく祈る。学校ではひどく無口で内気で討議などにもあまり参加しない。何時もナツとして、友達が何か強いたりすると強然と反撃する。

III 愛情の必要

児童観察に於て身体的発達、文化的背景等調査しても、尚且説明し盡されない人格的困難性が児童には見られるもので、周囲との不和、満たれぬ渴望、自己自身に対する懷疑等原因不明の行動を見て教師達は当惑することがある。

七才の男子Cの行動記録

家庭は貧しく月謝や給食代もろくに拂えない父は海軍に勤めて家に居ず母方の家族と同居。母には赤ん坊が生まれた為、Cの世話は殆ど出来ず、自己の容色が衰えて夫にうとんせられると心配している。Cはよく欠席遅刻をする。給食もまかいといって断るくせに人が食べる時は指まわして見ている。父の帰省中は出席状態もよく機嫌よくしている。一日に何度となく教室掃除をする事もある。……

かかるCの複雑な行動は、家庭・友人の愛情に飢えて安定した対人関係を求めている結果である。研究グループは、成人して後に幸福な適応性ある人間になるには、幼年期・少年期にどんな人間関係や諸経験を積む必要があるかという課題研究に向け、L. K. Frank: *Needs of the Child* 等の研究を始め、次の二年間は研究グループの者は児童の動機づけを更に理解しようと努めて、行動記録の仕方を工夫して行った。

IV 空想の研究

研究グループの教師達はPという空想癖の強い児童の事例研究によって空想の性質や原因に関する科学的概念を得た。

1 受持教師の記録

6才5ヶ月で第一学年の男子。家庭は下層階級の部で9才の兄と3才の妹がいる。

10月13日 自らの失踪した蒼色の小鳥について話した。午後テープを持参して来た。之をテープを合わせて小鳥を捕えようのだといつた。

10月19日 私がペルの新しい服を誂んで聞かしたところが、お父さん

が呉れた小羊の話がしたいといい、その羊毛で自分の服を作
つてくれた等と云つた。

10月20日 一匹の絵を描いて、その絵を調子の気配を作つたが、今迄を
い位の熱心なやつた。

11月3日 今日も暮をせらしてやつて来た。公園や停車場に遠足に行
き、ニコニコへまで行つたが、自分の小馬はここで買ったの
でもう十年余りも家の飾棚の上に置いてあると云つた。帰途
私達が販売店の側を通る時叔父さんは此処で佇んでいるのだ
と云つた。

11月7日 兀鷹が運動場の上を舞つているのをみて「あそこに僕の手
筒の鳩が飛んでいる」といふ、自分は殆ど凡ての種類動物
を持つていふと云つた。

11月25日 甚だ汚れた恰好で登校した。寒い日なのに二枚も絵を描い
た後、例の汽車がつかまされて逃げたいと云つた。読方の時間には
よく精出して又進んでいろいろを話した。或る児童が此
牛に思われたことを話した時に「さつとそれは逃げた僕の此
牛だろう」と云つたので「違ふ違ふ。君は此牛なんか持つてい
なかつたじゃないか」と極めつけられて、黙りこんでしまつ
た。

12月1日 一日中夜々の汽車の仕事を興味を持ち、休憩時間もその
けの熱心である。今週の仕事として彼は客車の側に茶色の
ペーパーを貼りつけることをやり、仕事止めの時間にせこま
で一心にやつていた。

12月5日 顔や両手はきれいにしていたが汚ない服装をして居り、ハ
ンカチも汚れていた。豚に持つて解つていた書物を取り出し
て進んで私に読んで聞かせて呉れた。兄が同じ物を持つてい
て救えたのだ、汽車の仕事では食堂車係となつてエプロンま
どつけていろいろと働いた。

2. 研究グループの討議

此の報告を中心にかつと討議して担任教師は同僚の意見を求め
た。提出された意見としては、

- (1) 真偽の区別をはつきり学んだことがないのではないか。
- (2) 真実を語る事と物語をする事の差異を知らせてやる事

(ハ) 動物に興味を持っていることからこの子供の助力について何かいい方法はないだろうか、等であつたが、支持教師は彼が家で無視される傾向があるとの意見を補足した。地方指導者から空想に関する文献(A. T. Jersild: *Child Psychology*; J. J. Morgan: *The Psychology of the Unadjusted School Child*) が図書館にある事を教えられて、これ等の読書や研究報告の集会を持ち又空想や自畫夢については、概念上の混乱があつたので、指導主事に来て貰つて講義を聞き、プリントして参考資料としたり、明堂の動機づけの行動についての科学的諸原則の注意事項を述べたりした。

3 教師による追隨研究

Pの教師は更に記録を随時して速話を集め次の春の終り頃にそれ等とまとめて行動の解釈をして見ようと思つた。集会の報告や読書等によつて、児童は欲求や充足されない内的要求をば空想化することを学が、Pの空想は何を意味し、毎日の行動とどんな関係があり、家庭訪問で学んだこととどう関連するか等考えて見た。心理学者は自畫夢の背後にあるものを見極めることが大事だを示してくれた。

家庭訪問で明かになつたこと

- (1) 級友に較べて遊ば道具が殆どなく湖の上に支那馬と支那羊があつた夫で、彼は許可を受けて時々取り出して可愛がっている。身なり格好も殆ど両親は構つてくれない。
- (2) 妹が一番可愛がられていて、彼は兄妹の間の子供である。
- (3) 家族の者は殆ど彼の個人的要求を知らない。
- (4) 家庭ではPは無視されている。

これらを考へあわせて、Pは高ぶる愛着の補償を動物に求めていることや空想の口げがいろいろな芸術的創作活動としてあらわれること等を知り、教師は次の如きことが最も大事なことだと思つた。

- (1) 家庭でのよりよき理解と愛
- (2) 扁桃腺やアデノイドを治し、家庭で絶えず子供の身体に関心を払うこと。
- (3) 学校での生きた諸経験
- (4) 学校での学定殿の雰囲気と経験

更に教師は次の二つの勧告を実行しようと思つた。

- (1) 始終家庭と接触を保ち、父母にP.T.A.に関心を持たせ、児童研究

グループを始めて両親にも参加させる。兄や父に、Pがよりよく道具・教科に習熟するように助力を頼むこと。

教師達はPについての討議や空想の研究の結果、児童の美的創作活動を通じて児童理解が可能なことや、児童の絵畫、詩、物語劇等がその先入観を知る手掛りとなること等を理解した。

▽ 要 約

本章では、教師達が児童の逸話記録を理解する為には、科学的事実や解釈的原則が大切なことを発見した次第を述べた。教師達が共に毎日生活している児童は全く興味深いものであつて、いろいろの解釈的諸原則を直接利用する機会をふえてくれるものである。

F 270

児童発達並に教育指導共同
研究会(C.D.G)について

中豫高校研究集会資料

1951.3

大洲高等学校
森 義 孝

『児童発達並に教育指導に関する共同研究会』(CDG)について

I 教育指導(単に指導)について

A. 指導(Guidance)の概念について

- 1) 指導の概念は不明確であつて必ずしも一義的であるとは云ひ得ない。
- 2) Guidanceは広義に於てはEducationと同義であり、少くともEducationの一位相である。
- 3) Guidanceはhelp又はassistanceであつてdirectionは以上の意味を排す。
- 4) Guidanceはguideすることであり用はるhelp, assist, urge以上の意味を排す。
- 5) Guidanceは個人的なものである。即ち個人を対象とするものである。
- 6) Group guidance, group counseling. 或はgroup work等の言葉が用いられるが、文脈はわかゆるgroup dynamics(集団力学)を利用して個人の発達を促し助けるものであつて「全体としての集団」の指導を意味するものではない。
- 7) Guidanceに於ては個々の児童の「理解」が必須条件である。
- 8) 学校に於ける指導組織は、それが個々の児童を知ることが出来るように計画される時に、最も有効なものとほる。即ちGuidanceの主要戦略は児童を知ることである。
- 9) Guidanceの根柢には個々の児童の人格の導緻性、自覚性、及び全一歩としての児童の理解という3個の要諦が立つて居る。
- 10) 要するにGuidanceとは、その理論並に實際が如何様であれ、発達し行く個人の自発的活動を助け、その個人の身心のあらゆる部面に亘つての発達を最高度に促進せしめ、その生活の各部面に於てよりよい適応を導きしめることであると云える。

B. Guidanceの技術について——廣の意味のGuidanceの技術は「技術」と被えたものである。

- 1) 各種の智能検査、能力検査、性格乃至情意検査、學力検査、或は適応検査(adjustment inventories)として呼ばれる。各々の人格性評価方法等は凡てGuidanceのための方法、技術と云はる。

- ① Guidance そのものの技術とはなし。それらは児童理解のための技術である。
- 2) Guidance の技術 (Techniques of Guidance Techniques) として挙げられる、Anecdotal records, Cumulative records, Case study, Interview 等の方法。技術と亦 Guidance の目的の技術とはあるが Guidance そのものの技術と異なるのは僅かに Interview だけである。凡そ皆 Guidance を行うために必要なる資料を得るための技術即ち児童理解のための技術である。
- 3) 児童理解の場に必要な資料を得る技術と之を資料を解釈する技術とをこれに依って児童と理解する技術とは別である。
- 4) 児童と理解する一こととこれと指導することとは一応別である。然し其の意味の Guidance は指導される児童の理解、たゞしては能はぬ。逆に云えば、児童の理解あるところ其の意味の Guidance そのものの技術は自ら生れ出る可能性がある。
- 5) Guidance そのものの技術、それは児童理解の上に構築理解せられる技術であり、それは多分に Guidance と行方人自身の態度、能力、人格に關係するものがあり、技術を越えた技術ではなればならぬ。
- 6) 要するに Guidance に当っては児童と理解する方法、技術又は決要件であり、而してその理解を基礎として其の意味の Guidance が行はれなければならぬ。
- 7) 日本に於ては、特に学校に於ては、斯様な意味の Guidance のための技術と Guidance そのものの技術共に不発達である。
- 8) Guidance が教育であり、少くとも教育の重要な一応相であるとするれば、凡そ其教師はその重要な資格として其の技術と Guidance の其の意味と方法とを併携、実践することが出なければならぬ。

II C D 等の目的及意義

A. 目的

本研究会は学校に於ける教育指導を更に効果あるものにするために

- 1) 國々児童の生長、発達を系統的に研究すること。
- 2) この児童発達の研究の基礎に於て教育指導を研明し行うこと。
- 3) 以上の目的を達成するために一つの学校組織を作り、参加者に対

(して実習指導を行)こし。

と、この複合的に的を絞つて、(本研究は長期継続する)

B. 意義

- 1) 児童を真に理解するための方法、技術、態度、知識を修得発展させ得る。
- 2) 知る Guidance のための技術並に Guidance としての技術を修得発展させ得る。
- 3) 斯くして Guidance に関する認識と知識としてのみならず教師自身の体験を通して身につけたものとし得る。
- 4) 之等が共同研究に依つて一層効果的に行はれ得る。
- 5) 斯く之れは教師の児童教育のための計画である。

蓋し、Guidance を児童研究に基礎付ける全ては、米国に於てこゝ程く最近のことである。日本に於ては斯う計画は最初のものである。

III C D 等の方法及び指導

- 1) 実習の主要方法として Case Study と速記記録の両方法を用いる。
- 2) 各教師は夫々1名の問題児、1名の正常児を観察対象として之れを長期に亘つて観察研究する。
- 3) Case Study の要領の指導
- 4) 速記記録の要領の指導
- 5) 其他児童理解に必要なる資料蒐集の諸技術
- 6) 児童の身体的、精神的生長発達に関する科学的事実、諸帰結、諸原理
- 7) 之等諸知識、原理に實際の観察、調査の具体的な諸事実を適用して之れを解釈する諸方法、手續、技術(児童理解)
- 8) 之等の児童理解に基づく Guidance の実際の要領等に関する研究指導
- 9) 之れに必要なる諸知識、討論、研究、指導のための集会の計画
- 10) 要するに之等が参加者と指導者との長期共同研究として行われ、参加者は児童理解と指導とを經驗を通して学び且つ実践するといふことになる。

IV. 組織

- | | |
|------------|--------|
| 1) 学校配布 | 2) 参加員 |
| 大洲高等学校 | 全教師 |
| 同子 | 2名 |
| 長浜 | 1 |
| 大洲甲学校 | 1 |
| 大洲小学校 同幼稚園 | 各2名 |
| 高多 | 1 |
| 久米 | 1 |
| 平 | 1名 |
- 3) 共同研究本部 大洲高等学校
- 4) 指導員 大洲高等学校長 森 義孝
- 5) 指導 Staff 大洲高等学校教師 段井久次郎 若干名
- ▽ 指導助言 (臨時個人的に行い、報告書について行う)
- Ⅳ 定例研究集会 第二及第四土曜日午後一時—四時
- Ⅴ 成立発足 昭和26年1月12日
- Ⅵ 本研究会成立の背景

- 1) 日本における教育指導の現状
1. Guidanceに関する著書、指導書、手引書等の氾濫に不測、その数の多くが、学校における実際のGuidanceの経験に基づいて書かれたものではなく教育の現状に即した生きた効果を発揮するには到らざりし傾向がある。
 2. 学校におけるGuidanceの現状はgroup guidanceに主眼が置かれ、然もその本質的意義が究明されずして、単なる形態模倣に終るか乃至は暗中模倣の状態であつて、最も重要なる導のGuidanceの目的たる個人指導の行方不明になつてゐる。
 3. 指導者の欠陥は教師自身のGuidanceに対する関心と熱情とを欠けしめられるか、或は必要の強い自覚と方策の発出との間に苦悶をせしめられてゐる。
- 2) 本研究会の全門を交へし決意に到らしめたる事情
1. 1951年の経緯：一昨年9月—12月、第5回Jyelに参加を命じられ、Dr Woodsの指導に依つて直接斯種の実習を以て、本方法の効果を経験したこと。
 2. 米国における応用は組織に依る斯種研究の遂まりは結果を知り

研たこと。

Helping Teachers Understand Children, American Council on Education, Washington D.C., 1945-

3. 日本の学界並に教育界に於ける教員の欠陥と云うてきたのは共同研究の不成立、不発達である。本団に於ける最近の良書が多く共同研究の成果に成るものであることを見るにつけて、継続的共同研究の成功を示さんと考えた。
4. 最初本校教師のみ、然もその内の有志のみに限つて之れを実施せんとした。教師達の熱意は全身之れに参加するの途で遂に日下大瀬町内中小学校 喜多郡内高等学校の校長諸君は喜んで教員で之れに参加せしめるの熱意を示されたこと。

以上の諸事情から此のCD守が生れにたものであり、現在迄は備はる予備的実践的実習を続けて行るが、今務能い限り継続的研究を進める予定がある。

1951. 5 H. H. Y. Moti

Suggestions for Observations of Child Behavior

F
270

- I. Choose one Child who troubles you and one who does not.
- II. Head the page with child's name, age, and grade.
- III. Try to record briefly at least one observation each day. Date each observation. Observe the same child or children throughout.
- IV. Record what the child says, in his own words, or what he does not your feelings about it or your judgment concerning it. For example, you might write, "Taro came in late and knocked papers off of Hajime's desk as he passed it. He seemed not to hear what was going on and made no move to get to work or participate," this, rather than, "Taro came in late in a fighting mood and obviously bent on making as much trouble as possible and upsetting everybody." Date each observation.
- V. Note how he compared with others of his age in:
 1. physical development
 - a. size
 - b. nutrition
 - c. fatigue
 - d. physical defects
 2. understanding
 - a. understanding his lessons
 - b. comprehending directions
 - c. comprehending stories read or told
 - d. reaction time
 3. initiative
 4. making friends
 5. contributing to work and play activities
 6. leadership
- VI. Remember that nothing the child says or does is insignificant. "All behavior is caused." Our job is to secure enough data to be reasonably sure we know the cause, and then work on that.
- VII. Add notes on any home situation which may have value for interpretation if you have personal knowledge of it or verified data.
- VIII. We plan for each participating teacher to have conferences with a member of the Ifel group in the guidance Section, with its consultant or leader from time to time.

Elizabeth L. Woods

Prof. Sawada

Sept. 18, 1950

Outline for a Case Study

- I. Identifying data
 1. Child's initials (or name)
 2. Sex..... Age in years and months.....
 3. Address..... Telephone.....
- II. Family data
 1. Father (name) Age..... Educ..... Business.....
 2. Mother (name) Age..... Educ..... (Employment)
 3. Siblings.....names, sex, and approximate ages
 - a.
 - b.
 - c.
 - etc.
 4. Economic status: excellent..... Good.....Fair.....Poor
very Poor.
 5. Persons living in the home
 6. Mother's attitude toward child and ideas of rearing
 7. Father's attitude toward child and ideas of rearing
 8. Child's rapport with siblings
- III. Child's Physical Development and Health at Present
 1. Birth..... describe if abnormal or very difficult
 2. Health in infancy good.....poor
 3. Childhood diseases
 4. Health and physical condition at present
- IV. Child's intelligence
 1. Test data Test used I. Q. date.....
 2. teacher's estimate on basis of
 - a. Comprehension of directions;
 - b. Anecdotal records of behavior
- V. Child's Academic Achievement

Test used

1. name	date	result
---------	------	--------

Starting the Project in Child Study

1. Visit with the principal, exchanging ideas on the new project.
2. Explore all sources of information on the child or children studied, cumulative records, principal's knowledge of the case, nurse, others.
3. Contact any other teachers who know the child or youth as soon as you conveniently can.
Let them understand that you and they are partners in this enterprise, of studying the child.
4. Contact the parents when you can, explaining your interest in the child.
5. See one or two of the children selected, exploring deffeiculties, if any, cautiously, asking ~~no~~ no questions which might be embarrassing.
Ask child what he likes best about school; what he likes least. Say you are here all the time to help all children. Find out who are his friends. Gradually (probably not at first visit, or by direct questioning) find out how he feels about his situation at school and at home; what he likes to do; whom he admires most. (Later, have a visit with the p parents, if this is indicated.) Avoid hurrying into the case, or forcing information from anyone concerned, child or adult. Get others to talk. They will as they feed confidence in you.
6. Make brief, factual notes on all contacts, with the principal, the other teachers, the children, and any others. If a child is observed every day for a time, a weekly report can be condensed from these daily notations. Reports are important but not the most important thing in this job.
7. Make arrangements for any examinations which seem needed to complete your information through the nurse, and or other teachers or the principal.
8. Use every opportunity to get really acquainted with the children whom you are studying. Secure their confidence. Make sure they think of you as a friend, not an inquisitor.
9. See to it that each faculty member knows you as a friendly, non-aggressive fellow-faculty member, whose job is to help anyone who calls upon you to aid in understanding and helping with children's adjustment problems.
10. Post this bulletin in the front of your loose leaf notebook for convenient reference.

By Elizabeth Woods

Prof. Sawada

Sept. 18, 1950

2. Name date

results

3. (etc)

VI. Child's Social Adjustment

1. With children

2. With adults

VII. Statement of problem, if any

VIII. Plans for treatment

IX. Results

Dated statements of results of treatment with, changes of plan if any

By Elizabeth Woods
Prof. Sawada

Sept. 18, 1950.

HEADQUARTERS
KANTO CIVIL AFFAIRS REGION
APO 500

RPM/ml

KCE 000.8

29 December 1950

MEMORANDUM THRU: Kanto Liaison & Coordination Section

FOR: Superintendent of Department of Education
Ibaraki PrefectureSUBJECT: Appointment of Secondary Education Guidance
Committees

1. In five of the prefectures of the Kanto Region, committees for study and research in guidance for the secondary school have been organized and have been functioning since June 1950. At the first general meeting of the five committees, which was held in Yokohama on 27 and 28 December, the possibility of organizing a Kanto Region Secondary Education Guidance Association was discussed.

2. It is highly desirable that your prefectural educators also become members of such an association; and, in order to participate effectively in such an organization, it is suggested that a committee similar to those in operation now in Nagano, Gumma, Chiba, Shizuoka and Kanagawa be formed in your prefecture.

3. Mr. Robert P. McManus, of the Kanto Civil Education Section, would like to meet with the committee at Mito (Senior High School) at 1300 hours, 6 February 1951.

4. The following suggestions for formation of the committee should be followed in order to secure some uniformity with the committees already functioning in the previously named five prefectures:

a. A special budget should be obtained for paying travel expenses, purchasing of a few materials, etc.

b. Members of the committee should be educators who are vitally interested in guidance programs.

c. Members should be appointed permanently to serve for approximately one year.

d. The committee should hold regular monthly meetings.

e. Two general Kanto Region meetings will be held during the year.

SUBJ: App of Sec Edu Guid Comm

29 Dec 50

f. The committee should be composed of the following members:

- (1) 3 senior high school principals
- (2) 4 junior high school principals
- (3) 3 teacher consultants
- (4) 12 junior high school teachers (1 Japanese Language, 1 Social Studies, 1 Mathematics, 1 Science, 1 Home Economics, 1 Agriculture, 1 Commerce, 1 Industry, 1 Music, 1 Art, 1 Physical Training, 1 English)
- (5) 12 senior high school teachers (same as junior high teachers)
- (6) 3 officials of City Department of Education
- (7) 3 officials from local offices of Prefectural Department of Education

Total - 40 members

g. Necessary Japanese references (for each member):

- (1) Mombusho - Pupil Guidance
- (2) Mombusho - General Teaching Methods for Secondary School
- (3) Mombusho - Administration for Secondary Schools
- (4) Traxler - Techniques of Guidance
- (5) Fedder - Home Room Activities
- (6) Edmonson - Administration of Modern Secondary School
- (7) Olsen - School and Community
- (8) Nixon - Introduction to Physical Education

5. It is requested that a list containing the names and positions of the members of this committee be sent to the Civil Education Section of this headquarters as soon as possible. Also please notify us as to the place where the first meeting will be held.

JULIAN DAYTON
Colonel, Infantry
Chief

OUTLINE OF COURSE ON SECONDARY SCHOOL PUPIL GUIDANCE

A. References:

1. Pupil Guidance in the Secondary School - Mombusho
2. Techniques of Guidance - Trazler (Vols. I and II)
3. The Administration of the Modern Secondary School - Edmonson
4. General Methods of Teaching in the Secondary School - Mombusho
5. Introduction to Physical Education - Nixon
6. Home Room and Club Activities - Fedder
7. Secondary School Administration - Mombusho
8. The New Junior High School - Mombusho
9. Desirable Characteristics of the Secondary School - Mombusho
10. Curriculum of the New Upper Secondary School - Mombusho

B. Topics for Each of the 11 Meetings - Basic Text, Traxler's Techniques of Guidance

First Meeting - February 1951

- a. Purpose of Guidance Committee
- b. Outline of Year's Schedule
- c. Meaning of Guidance

Second Meeting - March 1951

- a. Kinds of Information Needed about Each Student - Methods of Collecting Data
- b. Aptitude Tests
- c. Organization Into Sub-Committee

Third Meeting - April 1951

- a. Aptitude Tests (continued)
- b. Achievement Tests
- c. Research Projects #1

Fourth Meeting - May 1951

- a. Personality Tests
- b. Appraisal of Personal Qualities
- c. Reserach Projects #2 and #3
- d. Regional Meeting (last week of May)

Fifth Meeting * June 1951

- a. Counseling for Girls

Sixth Meeting - July 1951

- a. Use of Results of Testing Program
- b. The Role of the Teacher in the Guidance Program
- c. Follow-up Guidance
- d. Research Project #4

Seventh Meeting - September 1951

- a. Main Types of Pupil Personnel Records
- b. Cumulative Records
- c. Reports to the Home

Eighth Meeting - October 1951

- a. Adjustive Guidance
- b. Case Study Procedures
- c. Research Project #5
- d. Joint Meeting of 5 Prefectures

Ninth Meeting - November 1951

- a. Planning and Administering a Testing Program for Guidance Purposes
- b. Planning and administering a Guidance Program
- c. Teacher In-Service Training Program for Guidance

Tenth Meeting - December 1951

- a. Regional Conference

Eleventh Meeting - January 1952

- a. Reports
- b. Plans for Publications
- c. Evaluation
- d. Future Activities

C. Research Projects:

- #1. Survey to Determine Wherein the Secondary School was Most Helpful and Wherein it was Most Ineffective.
- #2. Case Study (Normal Child)
- #3. Personal Problems of Teen-agers.
- #4. Follow-up Guidance (after graduation)
- #5. Adjustive Guidance (problem child)
- #6. Behaviour Description

270 F

SUGGESTED COURSE OF STUDY FOR COUNSELOR GROUPS

First Meeting -

1. Meaning and purpose of Guidance
 - a - Need for guidance in the modern school
 - b - Types of problems confronting young people
 - c - Aims and purposes of guidance
 - d - Staff organization for guidance

Second Meeting -

2. Types of Guidance Data
 - a - Kinds of Information needed about individual students
 - b - Methods of collecting such data
 - c - Methods of recording such data

Organization of group into special research projects

Third Meeting

3. The Counseling Process
 - a - Analytical Techniques
 - b - The art of diagnosing
 - c - Techniques of Counseling

Fourth Meeting

4. The Use of Tests to Secure Guidance Data and Counselor Use of such Data
 - a - Achievement Tests
 - b - Aptitude Tests
 - c - Planning and Administering a Testing Program
 - d - Report on Research Topic #1

Fifth Meeting

5. The Testing Program (continued)
 - a - Personality Tests
 - b - Interest inventories
 - c - Tests for Emotional Maturity
 - d - Report on Research Topic #2

Sixth Meeting

6. Pupil Personnel Records
 - a - Main types of pupil personnel records
 - b - Cumulative Records in a Guidance Program
 - c - Reports to the Home
 - d - Report on Research Topic #3

Seventh Meeting

7. Counselor Problems Connected with Scholastic Achievement
 - a - Diagnosing reasons for students' scholastic failings
 - b - Remedial work for reading disabilities
 - c - Problems of Superior Students
 - d - Report on Research Topic #4

Eighth Meeting

8. Counselor Problems connected with Occupational Orientation and Student Finances
 - a - Unwise and uncertain Occupational Choices
 - b - Discrepancy between Interest and Aptitudes
 - c - Problem of Student Self-Support and Student Placement
 - d - Report on Research Topic #5

Ninth Meeting

9. Counselor Problems connected with Personality
 - a.- Problems of Social Maladjustment
 - b - Family Conflicts
 - c - Underlying Causes of Disciplinary Cases
 - d - Report of Research Topic #6

Tenth Meeting

10. Planning and Administering a Guidance Program
 - a - Proper Staff Organization and Training
 - b - Role of the Home-Room Teacher in Guidance Program
 - c - Role of the Class Room Teacher in Guidance Program
 - d - Evaluation of the Guidance Program

A Regional Conference on Guidance Problems during the Year would be desirable.

Research Projects: (Suggested)

Guiding Students regarding physical and mental health
Better Techniques in group guidance
Procedures in Case studies
Counselor Approach to the Home
Case study (normal child)
Adjustive Guidance (problem child)
Occupational Follow-up of Graduated Students.

References

1. Pupil Guidance in the Secondary School - Ministry of Education
2. Desirable Characteristics of the Secondary School - Ministry of Education
3. Secondary School Administration - Ministry of Education
4. The New Junior High School - Ministry of Education
5. The Curriculum of the New Upper Secondary School - Ministry of Education
6. Techniques of Guidance - A. E. Traxler - Harper Brothers
7. How to Counsel Students - E. G. Williamson - McGraw Hill Book Co.
8. Principles of Guidance - A. J. Jones - McGraw Hill Book Co.
9. Mental Hygiene in School Practice - N. Fenton - Stanford University Press
10. Adolescence and Youth - P. H. Landis, McGraw Hill Book Co.
11. Our Teen-Age Boys and Girls - Crow & Crow, McGraw Hill Book Co.
12. Education of Exceptional Children - A. O. Heck, McGraw Hill Book Co.

References

1. Pupil Guidance in the Secondary School - Ministry of Education
2. Desirable Characteristics of the Secondary School - Ministry of Education
3. Secondary School Administration - Ministry of Education
4. The New Junior High School - Ministry of Education
5. The Curriculum of the New Upper Secondary School - Ministry of Education
- * 6. Techniques of Guidance - A. E. Traxler - Harper Brothers
7. How to Counsel Students - E. G. Williamson - McGraw Hill Book Co.
8. Principles of Guidance - A. J. Jones - McGraw Hill Book Co.
9. Mental Hygiene in School Practice - N. Fenton - Stanford University Press
10. Adolescence and Youth - P. H. Landis, McGraw Hill Book Co.
11. Our Teen-Age Boys and Girls - Crow & Crow, McGraw Hill Book Co.
12. Education of Exceptional Children - A. O. Heck, McGraw Hill Book Co.

* Techniques of Guidance
(Gaidansu no Gijutsu) Vol. I and II
Dogaku-sha Publishing Company
Bunkyo-ku, Tokyo
Cost of two volumes - 760 yen.

F 270

No. 1

The Program of Shikoku District Teachers' Consultants' Conference
(for their own in-service training)

Place: Ikeda-cho, Tokushima Prefecture

Date: 28th & 29th of June, 1950

Participants: about 25. (Teachers' Consultants and other guidance staff)

Program:

I) The 1st Day: (8.30 - 16.00)

Ⓐ Demonstration of School Visiting by Teachers' Consultants (8.30 - 12.30)

ⓐ Primary School Visiting (Ikeda Primary School)

○ 1st Period - Class Instruction of Every Teacher)

○ 2nd Period - Special Class (Integrated Learning of
the 1st year grade in terms of arithmetic)

○ Conference with the principal and teachers

ⓑ Lower Secondary School Visiting (Ikeda Lower Secondary School)

○ 1st Period - Class Instruction of Every Teacher)

° Second Period - Special Curricular Activities

- (a) Pupils' Conference on the subject "How should our school library be?"
- (b) Central Committee Meeting of Students' Council
Subject: "The Program of Baseball Contests in Our School."
- (c) Familiar Talk with a few graduates on "How should we select our occupation?" (Vocational Guidance)
- (e) (d) Conference with the principal and teachers.
- (c) Upper Secondary School Visiting (Ikeda Upper Secondary School)
 - (a) Class Instruction of Every Teacher
 - (b) Special Class: - English, Japanese Language, Home-making.
 - (c) Home Room Demonstration
 - (d) Conference with the principal and teachers

775013

DECLASSIFIED E.O. 12065 SECTION 3-402/NNDG NO.

No. 2

[B] Conference (13.30 - 16.00) Message from Mr. Hager.
(by Teachers' Consultants)

Topic: "How should our school-guidance program be?"

o The System of or staff

Kochi & Tokushima Pref. - only teachers' consultants (10 members)

Ehime Pref. - Teachers' Consultants 6, Assistants 10,

guidance members for Subjects 41.

Have difficulty in the close cooperation by
guidance staff because of too many members.

Kagawa Pref. - Teachers' Consultants 6, Assistants 12,

(Fairly good system?)

o Teachers' Consultants have too much work to do, so they
cannot visit schools so often as they want, and they
have very little time for self study.

II. The 2nd Day (9.00 — 15.00)

(A) Presentation of Individual Study or Research ^(9.00 — 12.20) (Each for 40 minutes)

1. "Cooperative Evaluation of Agricultural Course"

by Mr. Kibuchi — Ehime Prefecture Teachers' Consultant

2. "Achievement Test to the 3rd year grade of Lower Secondary Schools at the beginning of 1950."

by Mr. Neta — Kochi Prefecture Teachers' Consultant

3. "Some Problems in Character Education"

by Mr. Nishiyama — Kagawa Prefecture Teachers' Consultant

4. "On Guidance and Supervision"

by Mr. Mori — Tokushima Prefecture chief of guidance Section

5. "On my recent trip through U. S. of America."

especially in connection with Teachers' Consultants' Work.

by Mr. Kōno, Tokushima Prefecture Superintendent

(B) Lecture by Mr. Kōo Kōno, Tokushima Pref. Superintendent (1.00 — 3.00)

"The Modern Education in America." — To the teachers and ^{the} public in general

F270

Counselors' Training Course Program

Place: A group 1. Takamatsu Prefectural Public Hall (September)
 2. Takamatsu Citizen Hall (October)
 B group Tadotsu Technical Upper Secondary School

A day's program:

Time 0930 - 1200 Morning lecture and discussion
 1200 - 1230 Lunch
 1230 - 1300 Recreation
 1300 - 1600 Afternoon lecture and discussion

1.

11 Sept Takamatsu "Fundamental problems in modern education" Mr. Takatsuka, the chief of Kagawa Pref. Educational Research Institute "What should counselors do?" Mr. Kagawa, teachers' consultant
 12 Sept Tadotsu The same as above-mentioned The same as above-mentioned

2.

15 Sept Tadotsu "Character guidance" Mr. Nishiyama, teachers' consultant "Case study" Mr. Mori teachers' consultant
 16 Sept Takamatsu " " " "

3.

19 Sept Takamatsu "Important problems in guidance" Mr. Homma, Kagawa University "Educational diagnosis" Mr. Takahashi, Kagawa University
 21 Sept Tadotsu " " " "

25 Sept	Takamatsu	"Youth psychology and guidance" Mr. Onishi, Osaka University	"Our student guidance" Mr. Hashizume, counselor of Mishimano USS, Osaka Pref.
26 Sept	Tadotsu	"	"
<u>5.</u> *			
30 Sept	ISS at each gun or town USS, Taka- matsu & Tadotsu	Workshop Theme: 1. Counseling 2. Anecdotal record 3. Case study 4. Guidance program	"
<u>6.</u>			
5 Oct	Takamatsu	"Vocational guidance and tests" Mr. Kato, chief of Osaka Pref. Vocational Selection Consultation Office	"
6 Oct	Tadotsu	"	"
<u>7.</u>			
8 Oct	Takamatsu & Tadotsu	Group discussion (Lower and Upper Secondary Separately) 1. Home room group 2. Co-education group 3. Student council group 4. Recreation 5. Etiquette	"
<u>8.</u>			
10 Oct	Takamatsu	"Problem child" Mr. Yoshio, Takamatsu Youth Protection and Diagnosis Office	Speeches by each re- presentative of each county and town work- shop on Sept 30
12 Oct	Tadotsu	"	"

2.

16 Oct	Takamatsu	"Principles of guidance" Mr. Bando, Kagawa University	"Guidance and special curricular activities" Mr. Suzuki, Kagawa University
17 Oct	Tadotsu	"	"

10.

19 Oct	Takamatsu	Speeches by representatives of each group of Oct 8th	"Counselors' Confer- ence in the future"
--------	-----------	---	---

11.*

28 Sept	Takamatsu	"Modern psychology in America" Mr. Koga who returned from America recently (Hiroshima University) Intelligence tests and Achieve- ment tests, Mr. Koura, Hiroshima University	"
---------	-----------	---	---

Home Work:

Note: Each participant presents report on the subject which one chooses.

Each school makes guidance program till the end of this year.

Counselors' Training Course Program

Place A group — { (1) Takamatsu Prefectural Public Hall (September)
 (2) Takamatsu Citizen Hall (October)
 B group — Tadotsu Technical Upper Secondary S.

A Day's Program

Time 9.30 — 12.00 Morning Lecture and Discussion
 12.00 — 12.30 Lunch
 12.30 — 13.00 Recreation 13.00 — 16.00
afternoon Lecture
Discussion

1	Sept. 11	Takamatsu	"Fundamental Problems in Modern Education" Mr. Takatsuka (The chief of Kagawa Pref. Educational Research Institute)	"What should Counselors do?" Mr. Kagawa (Teachers' Consultant)
	Sept. 12	Tadotsu	The same as above-mentioned	The same as above-mentioned
2	Sept. 15	Tadotsu	"Character Guidance" Mr. Nishiyama (Teachers' Consultant)	"Case Study" Mr. Mori (Teachers' Consultant)
	Sept. 16	Takamatsu	"	"

3	Sept. 19	Takanatsu	"Important Problems in Guidance" Mr. Homma (Kagawa University)	"Educational Diagnosis" Mr. Takahashi (Kagawa University)
	Sept. 21	Tadotsu	"	"
4	Sept. 25	Takanatsu	"Youth Psychology and Guidance" Mr. Onishi (Osaka Univ.)	"Our Student Guidance" Mr. Hashizume (Counselor of Mishimano Upper Secondary School, Osaka Prefecture)
	Sept. 26	Tadotsu	"	"
*			" Workshop Theme: 1. Counseling	
5	Sept. 30	Lower S.S. - at each gun or town. ---	2. Anecdotal Record	"
		Upper S.S. - Takanatsu + Tadotsu	3. Case Study 4. Guidance Program	

6	Oct. Nov. 5 Sept.	Takanatsu	Vocational Guidance & Tests The chief of Mr. Kato (Osaka Prefectural Vocational Selection Consultation Office)	
	Oct. Nov. 6	Tadotsu	"	"
7	Oct. Nov. 8	Takanatsu	Group Discussion (Lower and Upper Secondary Separately)	
		Tadotsu	(1) Home Room Group	
			(2) Co-education	"
			(3) Student Council Assembly, Club	"
			(4) Recreation	
		(5) Etiquette		
8	Oct. Nov. 10	Takanatsu	"Problem Child" Mr. Yoshio (Takanatsu Youth Protection and Diagnosis Office)	Speeches by each representative of Each County & Town Workshop on Sept. 30
	Oct. Nov. 12	Tadotsu	"	"

9	Oct. 16 Nov. 16	Takamatsu	"Principles of Guidance" Mr. Bando (Kagawa Univ.)	"Guidance and Special Curricular Activities" Mr. Suzuki (Kagawa Univ.)
	Oct. 17	Tadotsumi	"	"
10	Oct. 19	Takamatsu	Speeches by each the representatives of each group of Oct. 8th	"Counselors' Conference in the future"
	Sept. 28	Takamatsu	"Modern Psychology in America" Mr. Koga who returned from America" recently. (Hiroshima Univ.) Intelligence Tests + Achievement Tests Mr. Koura (Hiroshima Univ.)	
* 11				
			Home Work:	

Note: Each participant presents Reports on the subject which one chooses.
Each school makes guidance program till the end of this year.

= 270
~~278~~

2 March 1950

Subject: Period of Home Room at Lower Secondary School and Upper
Secondary School

To : Chief of Civil Education Section, Shikoku CA Region

From : M. Honda, Chief of Guidance Section, Kagawa Board of Education

1. Period of Home Room at Lower Secondary School

a. In the instruction from the Mombusho, "the amendment of the school-hours and the subjects of new system upper and lower secondary school," the following is indicated on "student guidance and Home Room."

(The period of Home Room shall be included in the hours of special educational activities on this list. It is better more than one hour a week will be given for Home Room period.)

b. In "Guidance of new secondary school system" a book, published by the Mombusho, on page 153 it is indicated as follows:

"The length of period and number of times of Home Room shall be regulated according to the purpose and activities of each Home Room. One thing to be paid attention is to avoid to make a plan to spend so long hours for it.

The period of Home Room should be an period of sacred and inviolable, and be treated predominantly so as not to be interfered from outside, or the period should not be shortened or cancelled by any circumstances of the school. Every member of the group should attend the period of Home Room. The school authorities should not utilize the period for their reports or some announcements.

c. In "student guidance at Lower and Upper Secondary School" published by the Mombusho, it is indicated as follows on page 36:

"In general, a teacher who was elected as a leader of Home Room shall be in charge of a group of the same year. An ideal plan is that Home Room group shall gather once a week for one hour to discuss a certain special subject and in the other weeks days, special club meeting, general meeting of all the students, and committee meeting shall be held."

2. Period of Home Room at Upper Secondary School

a. In "Explanation of curriculum at new system upper secondary school," on page 104, it is indicated as follows:

(Let us simply make a sketch of one day at an upper secondary school. 0800 - sounds the bell of starting school. Every student gathers in each Home Room. 15 minutes' Home Room Period will begin. Apart from

this one period would be given for Home Room for student guidance. Morning greeting will be exchanged and the person in charge will call the roll. The teacher in charge of Home Room announces the prospective special programmes and ordinal things. The prints (news) published by the principal, will be read then if they had.)

Page 105. It had better planned that one periods Home Room, one periods club activities, and one periods' students' meeting shall be held once each in a week.

Page 106. Every student will be gathered in Home Room during that period, and student guidance will be given for them. As above mentioned, it is desirable that 15 minutes in every morning ~~will~~ be given for Home Room to arrange daily affairs, but one period's Home Room means that they discuss on civil affairs, choosing occupations, development of their characters and individuals, and learn how to study, and solve all the difficulties with which students meet, but not the period for calling roll and arranging daily affairs only.

by H. Sene

Pupil guidance Mr. Hayer ^F
270

From the "Monthly Report of Board of Education" for the month of October, published by Kagawa Board of Education on 10 October 1949.

Home-room Teachers and Guidance

By Kawamukai, Hajime
Teacher of Tadotsu Upper
Secondary School

Recently those who mention new education always speak of the guidance. I myself understand the essentials of the guidance as the way in which the individuals are given due advice and instructions for intelligent choice, interpretation, and adaptation sufficient to make them a perfect member of society in their daily lives, and are given the ability to get on independently in the complicated society.

Guidance is at present understood as covering the whole sphere of individual life, when the guidance not only to occupations, health, school learnings, family life, but also even to religious affairs is mentioned. So the contents of guidance are various and complicated, covering all the spheres of education. It can be said that guidance is another name of education itself. Such a vast field of guidance will, of course, give rise to divergent views especially in the guiding activities in practice. In fact, many problems of study remain unsolved. Be that as it may, I am of the opinion that the guidance to the citizenship and morals is most important in the education of the upper secondary school at present.

The surrender caused social confusion, degeneration, and living difficulties which created such a mental situation of society at present as observed in the mentally deranged persons. How immeasurable the influences are upon youth and minors of such mental situations of society?

Even though we limit our observation to those things which appear in the newspapers, there are so many delinquent behaviours or criminal offences of youth and minors, suicide cases resulting from sceptical social phenomena or living, etc., that we never before felt so keenly the necessity of guidance as at present.

The affairs pertaining to guidance are taken charge of chiefly by the home-room teachers in the upper secondary school.

I think, the home-room is tantamount to a class-room as a sweet home. In the home-like atmosphere of this system the teachers and students should become as intimate as in the relation of fathers and children, and of brotherhood. The home-room should be developed to a situation that the students there admit one another into their private secrets or distresses.

It will be meaningless to waste the hour of home-room in delivering a so-called "sermon".

I am executing the followings in the hour of home-room as for the guidance:

1. Drafting the learning program by individuals
2. Policy for studying
3. Development of individuality
4. Criticisms of the social problem which arise daily
5. Policy how to get on in the world
6. Qualification for being a citizen of the school
7. Uprightness of dress
8. Courtesy and manners

The guidance is not executed only in the hour of home-room. In the case of club activities, sports, experimental practices, etc. on the way of attending and retiring from schools, outside schools, etc. all the opportunities should be taken advantage of for the purpose. The guidance should be such as the so-called "Jijo (learn by practice) training" advocated by Wang Yangming. In order to conduct thorough individual guidance it is important to know each student well.

The home-room teachers should keep books of investigation of individuality and family conditions, maintain close connection with the family and conduct a thorough guidance to the individual life of the students. The observation of students as the basis of guidance on one hand, and the guidance to the individual life of students on the other should be enforced strictly in concert.

The results of observation should be described occasionally and be written into the book of investigation.

It is felt most keenly for me to necessitate the cultivation and study. The teachers must be trusted and respected by the students in order that the students consult the teachers even revealing their private secrets. For that purpose the teachers must understand the youth well, possess such a passion as of the youth, and be capable of giving clear answers/any questions of the student and giving guidance to the youth.

If the model of the teacher's personality becomes of itself able to affect the students, the guidance will reach its goal.

Mr. Hager

From the "Monthly Report of Board of Education" for the month of October, published by Kagawa Board of Education on 10 October 1949.

New Education and Visual Education

By Kaneko Yokoi
Member of Special Committee
for Visual Education

1. General Explanation of the Outline of Visual Education.

The history of education has developed from "learning through arranged books" to "expression of interests of students," and further to "solution of problems necessitated by the human," as Orsen stated. It is meant that the basic character of education has developed from a knowledge school of culture priority system, to an emotion school of children priority system, and further to an action school of society priority system. In other words the school has developed from a knowledge school to a progressive school and further to a community school. The above development resulted of course from the change of social ground which urged it.

In Japan after the war, there are many problems the solution of which is entrusted by the social ground to education. The idea of the new education is nothing but the changed basic character of the education which we took up for the purpose of engaging in solving the problems. The idea of the new education after the war is thus connected with the solution of the problems of Japanese society to introduce the community school into Japan has begun with our intention to solve the social problems. Our attempt to adopt the community school as a form of school in the post-war Japan doesn't mean its import by a pseudo-modernist for the purpose of showing his modernism. But the attempt is an expression of our efforts to find out a way of solving the Japanese social problems after the war in the practice of education. Those problems were caught by us in our eager efforts towards reconstructing Japan.

Why was such the war caused? Why were we destined to experience such a miserable result? The crime must not be laid at the military forces alone but must be dug out radically in the deepest ground of Japanese society, mentally as well as materially. The search for the idea of the new education must begin with this.

The establishment of community schools in U.S.A. began with the American people's reflection on their life and society on the occasion of the economic crisis in 1929. Many educators grappled with the so-called "American problems" and worked out a plan for the American life and education through solving various problems in culture, society, politics, and economy of the U.S.A. A theoretical conclusion of the plan was the start of the community school which was established through changing the schools into those of life from those of students' interest priority system in the past. It should be a good lesson for the Japanese. We have many

"questions and problems of Japan" to be solved. Such the social problems are demanding the school education to establish a new idea and principle.

As for what the education should be in this prefecture, the following items were given as a principle of the new education on a basis of the above social demand.

- a. Education must be one which respects the individuals and which can be adapted to them.
- b. Education must be one which can be adapted to society and which serves for its development.
- c. Education must aim at training professional people.
- d. Education must aim at the development as a whole of the student or the education for perfect humanity.
- e. Education must be conducted through respecting the direct experiences of the students.

The change in education - from the nationwide standardized education based on the Ministry of Education instructions of developing encyclopedic man or personal interest intellect of the past to the education of building well rounded man who can participate in constructing a nationwide cooperative society by contributing in his local community - is noteworthy. The transformation applies not only to this prefecture. But there should be a change in the basic character and structure of general education so that education after the war will meet the necessities of solving the social problems on post-war Japan.

Visual education is an important medium in executing the new idea of education. Compilation of curricula on the basis of the new idea is, of course, a fundamental element of the new education. However, if the curriculum were not to be accompanied by a medium to execute the curriculum, it would be only a paper plan with no effects on the practice of education. The new idea of education should be organized into a curriculum and the curriculum should be introduced in the actual learning. The educating method or medium in this case is nothing but the method of visual education. The visual education means an education which is conducted through those educational media which resort more to visual and auditory senses than any other media. It has been backed by the theories of Hoban and Dale.

Hoban was of the opinion that the purpose of education was the generalization of experiences. He introduced visual education materials, since they were more effective in generalizing the experiences than speech, because the visual materials could give a similar experience to the original ones. Dale opined that the purpose of education was making a concept.

And he introduced visual education materials as a more effective medium in order to give as many experiences as possible which were necessary for making a concept. The idea of the new education exists in conducting an education for perfect man through respecting the direct experiences of students. So the making of concept and its utilization which are aimed at in such an education should be materialized through visual education alone. Then the learning system centering around visual education should be the contents of the practice of the new education system.

Such an educational method has been adopted not only in the community schools but it has been also been adopted in the old-fashioned knowledge-schools or progressive schools. It was already mentioned by E.G. Orsen when he dealt with the former schools and by Pestalozzi, Rousseau, and Froebel when they discussed the educational effects of such materials. Even in 1658 a text-book for teachers was published with illustrations. Development of photography and techniques of duplicating pictures created more possibilities for using such materials. Moving pictures became now an important medium of visual education. The visual education materials have been thus adopted more and more.

Since 1932 in U.S.A. the specialists of radio and visual education have been given charge of assisting in visual and auditory education in schools and universities throughout the country. Moreover, almost all universities are equipped with a film-library as educational material. The Education Conference in Washington, for example, has been engaged in producing and distributing throughout the country educational films. And what are the actual conditions in Japan?

The Division of Visual Education was established in each prefectural office. Film-libraries were also established every where. But if we review the situation closer it will be revealed that the library is chiefly dependent on C.I.E. films. Moreover, the library was established for the Social Education Section in principle. So the library has contributed only to the utilization of films for adult social education, but was not fully utilized in schools. It was utilized in schools only for introducing those films which are treated as for extraordinary lessons or recreation. Visual education is so far only a screening on tour for adults.

So the training courses for handling the projectors, making magic lanterns, and picture shows have been held. However, they have been not yet utilized along the intrinsic lines of the visual education system. Mere expression of the contents of text-books in the form of magic lanterns or their reproduction in the form of picture-show were regarded as the visual education itself and introduced into the learning system.

Even the drives for collection of money for purchasing films through hands of students and pupils in Niigata-ken or Kochi-ken may be apt to result in serving for the producers of such educational materials, as far as the definite standards for the visual education system in schools will not be established on a basis of the new idea of education.

We, those who serving in the practice of education, desire that the materialization of the new idea of education, establishment of theories of visual education system, and execution of the essential learning system be carried out as quickly as possible.

270

Report of Standard Achievement
Test in 1949

March 11, 1950

昭和24年度

標準学力検査中間報告

昭和25年3月11日

Guidance Sec
Research Sec

Kochi Board of Education

指導課
高知県教育委員会 調査課



Rec'd 30 Mar. 1950

標準学力検査中間報告

2月7日、8日の二日間にわたり、県下一斉に新制中学校3年生の標準学力検査が行なわれた。その問題並に問題作製の過程、或は組読系統経費等については担当課である指導課より報告があると思ふが、調査課にては、その担当範囲内の解析結果を公表する。與えられた資料は

- 資料1. 標準学力表点表 (各校一枚)
- 資料2. 標準学力検査素点整理表 (一部)
- 資料3. 素点分布表 (一部)

の3部よりなっている。従つて主として資料1による解析と、資料3による解析の2段階に分けて仕事を運ぶことにした。この中間報告は亦1段階の資料1によるものの結果である

目 次

1. 標準学力検査表点県計
2. 郡別平均値比較
3. 平均点別学校分布表
4. 計算式と記号
5. 国語
6. 社会
7. 数学
8. 理科
9. 英語
10. 英語
11. 学校の平均点と教員数の相関関係
12. 標準学力検査高知県平均図表

1 標準学力検査素点県計 学校数=227校

教科	男女別	在籍者数	欠席者数	受験者数	素点合計	平均
国語	男	7,903	720	7,183	448,512	62.4
	女	7,538	489	7,049	462,769	65.7
	計	15,441	1,209	14,232	911,281	64.0
社会	男	7,903	689	7,214	468,530	64.9
	女	7,538	498	7,040	434,309	61.7
	計	15,441	1,187	14,254	902,839	63.3
数学	男	7,903	720	7,183	225,132	31.3
	女	7,538	486	7,052	221,769	31.4
	計	15,441	1,206	14,235	446,901	31.4
理科	男	7,903	714	7,189	395,090	55.0
	女	7,538	500	7,038	356,780	50.7
	計	15,441	1,214	14,227	751,870	52.8
職業	男	7,903	720	7,179	534,218	74.4
	女	7,538	484	7,054	494,305	70.2
	計	15,441	1,204	14,233	1,028,523	72.3
英語	男	6,002	803	5,199	170,625	32.8
	女	5,708	655	5,053	151,953	30.1
	計	11,710	1,458	10,252	322,578	31.5

2 郡別平均値比較

教科	男女別	安芸(27)	香美(18)	土長(38)	高知市(14)	吉川(20)	高岡(52)	幡多(58)
国語	男	59.0	63.8	59.6	77.2	59.4	59.2	57.7
	女	64.0	68.9	65.1	77.7	62.8	62.1	60.1
	計	61.5	66.4	62.2	77.5	61.0	60.6	58.9
社会	男	62.4	63.3	66.6	76.1	63.6	62.2	60.3
	女	60.2	61.8	67.5	71.3	58.0	57.7	57.1
	計	61.4	62.5	67.0	73.7	61.0	60.0	58.6
数学	男	26.9	33.1	28.4	46.9	31.0	28.2	25.0
	女	27.4	34.8	30.0	45.0	30.0	28.4	25.1
	計	27.1	34.0	29.1	46.0	30.5	28.3	25.1
理科	男	53.0	52.6	56.1	68.2	51.5	50.9	51.2
	女	47.2	50.7	54.5	62.2	47.3	47.1	46.0
	計	50.1	51.6	55.3	65.2	50.0	49.0	48.6
職業	男	52.9	75.0	74.8	85.8	72.8	81.6	69.1
	女	47.3	74.2	76.1	83.3	70.1	68.2	68.7
	計	50.1	74.5	75.4	84.5	71.5	75.0	68.9
英語	男	29.6	29.5	30.7	49.1	28.3	29.4	28.4
	女	26.6	28.4	29.8	47.0	23.3	24.3	26.9
	計	28.1	28.7	30.3	48.0	26.2	26.9	27.7

郡名のテ...

3 平均卓別学校分布数

i) 度数分布表

階級	国語		社会		数学		理科		取業		英語	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
0~9	—	—	—	—	1	0.5	—	—	—	—	7	3.3
10~19	—	—	—	—	27	11.9	—	—	—	—	49	23.3
20~29	1	0.5	—	—	124	54.5	7	3.1	—	—	60	28.4
30~39	—	—	3	1.3	59	26.0	29	12.8	1	0.5	34	16.1
40~49	27	11.5	30	13.2	12	5.3	91	40.1	7	3.1	34	16.1
50~59	83	36.5	90	39.6	2	0.9	68	30.0	24	10.6	20	7.6
60~69	81	35.5	68	30.0	2	0.9	23	10.0	78	34.4	4	1.9
70~79	35	14.5	25	11.0	—	—	8	3.5	75	33.0	2	0.9
80~89	2	0.9	10	4.4	—	—	1	0.5	36	15.8	1	0.5
90~100	1	0.5	1	0.5	—	—	—	—	6	2.6	—	—
	227	100	227	100	227	100	227	100	227	100	211	

ii) 累積度数分布表

中央値	国語		社会		数学		理科		取業		英語	
	累度	%	累度	%	累度	%	累度	%	累度	%	累度	%
4.5	—	—	—	—	1	0.5	—	—	—	—	7	3.3
14.5	—	—	—	—	28	12.4	—	—	—	—	56	26.5
24.5	1	0.5	—	—	152	66.9	7	3.1	—	—	116	54.9
34.5	1	0.5	3	1.3	211	92.9	36	15.9	1	0.5	150	71.0
44.5	27	12.0	33	14.5	223	98.2	127	56.0	8	3.6	184	87.1
54.5	110	48.5	123	54.1	225	99.1	195	86.0	32	14.2	204	96.7
64.5	191	84.1	191	84.1	227	100.0	218	96.0	110	48.6	208	98.6
74.5	224	98.6	216	95.1	—	—	226	99.5	185	81.6	210	99.5
84.5	226	99.5	226	99.5	—	—	227	100.0	22	9.7	211	100.0
94.5	227	100.0	227	100.0	—	—	—	—	227	100.0	—	—

4. 数式と記号

度数分布を代表する記述手段として、平均、分散度、非対称度、尖峯度が普通に用いられる。以下の計算に用いた数式と記号について、ここに簡単に述べる。

I. Average (平均)

平均として ① 算術平均 ② median 中位数 ③ Mode 並数の3つを計算した。

i) Arithmetic average 算術平均

算術平均はよく知られた平均で、普通平均といえよこのことである。次の式で与えられる。

$$M = \frac{X_1 + X_2 + X_3 + \dots + X_n}{N} = \frac{\sum X}{N} \quad (1)$$

N: 総度数, $X_1, X_2, X_3, \dots, X_n$: N個の変数

度数分布で与えられた時は

$$M = \frac{\sum X \cdot f(x)}{\sum f(x)} = \frac{\sum X \cdot f(x)}{N} \quad (2)$$

f(x): 度数, $N = \sum f(x)$: the total frequency

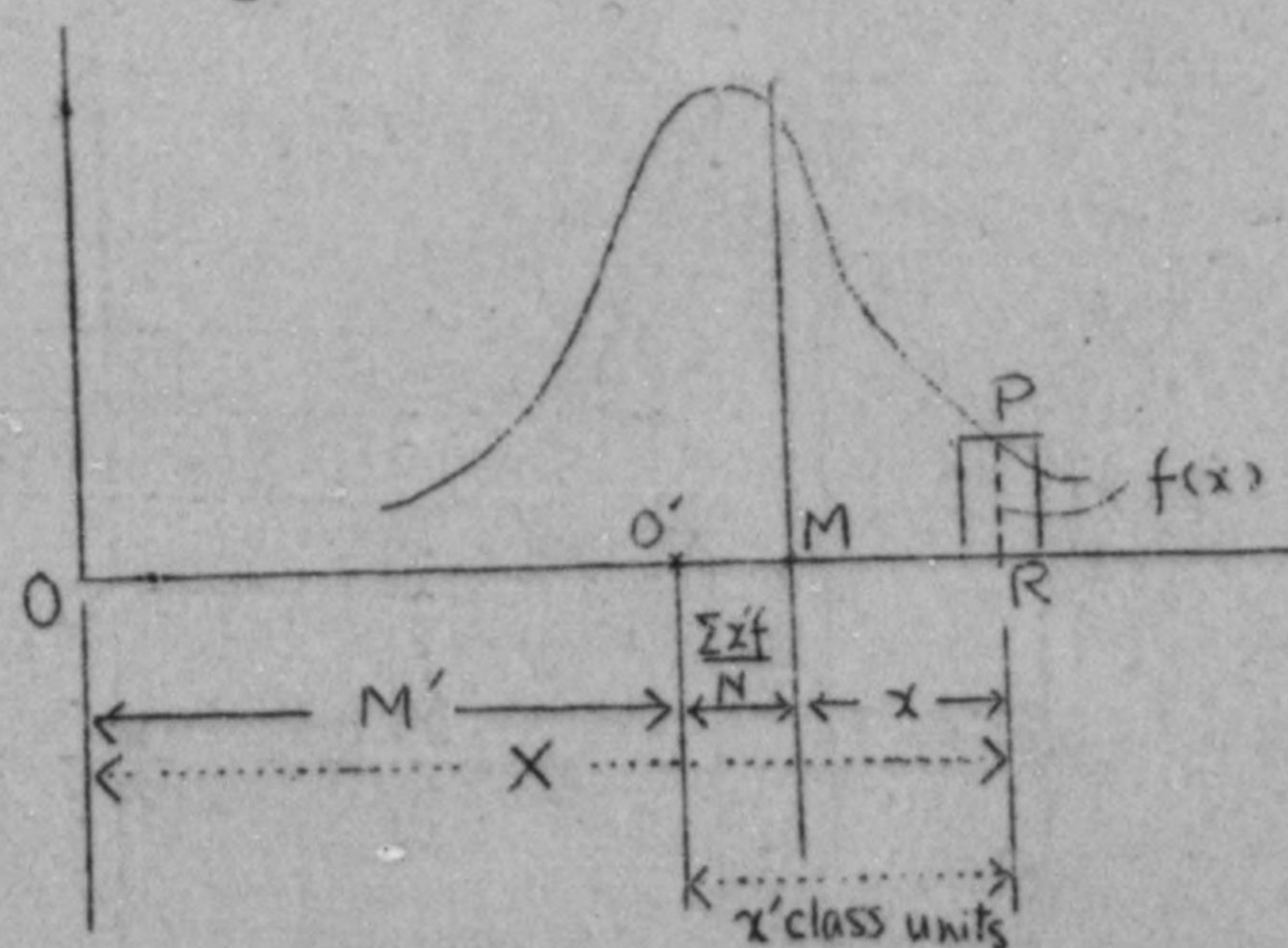
実際の計算には、次の簡便式を用いた。

$$M = M' + \frac{I \sum x' f(x)}{N} \quad (3)$$

但し M' = distance in origin units from 0 to the new origin O'

I = the class width

$x' = \frac{X - M'}{I}$ the deviation of X from M' expressed in class units



ii) Median, Me 中位数

中位数とは簡単にいうと、一組の数を大きさの順に列べた時の真中の数である。測定値が度数分布に表示されているならば、中位数とは、測定値の1/2が、それより下であり、1/2がそれより上にあるようなX-scale上の点として定義される。

公式としては次のものを用いる

$$Me = b_2 + \left(\frac{\frac{N}{2} - n_2}{f_2} \right) I \quad (4)$$

N: the total frequency

I: the class width

b₂: the lower class boundary of the median class

n₂: the total frequency of all classes less than b₂

f₂: the frequency of the median class

近似的には累積度数分布より求めうる。

iii) Mode, M₀ 並数

並数を簡単に説明すると、最大度数の起るX(測定値)の値である。つまり、度数曲線のmaximumに対するXの値である。之を厳密に求めるのは、非常に困難であるので、並数があると思われるclassとその前位の度数をもつて、次の式により、一義的に求める。

$$M_0 = b + \left(\frac{f_{+1}}{f_{-1} + f_{+1}} \right) I \quad (5)$$

f₋₁ = the frequency of the class next lower than the modal class

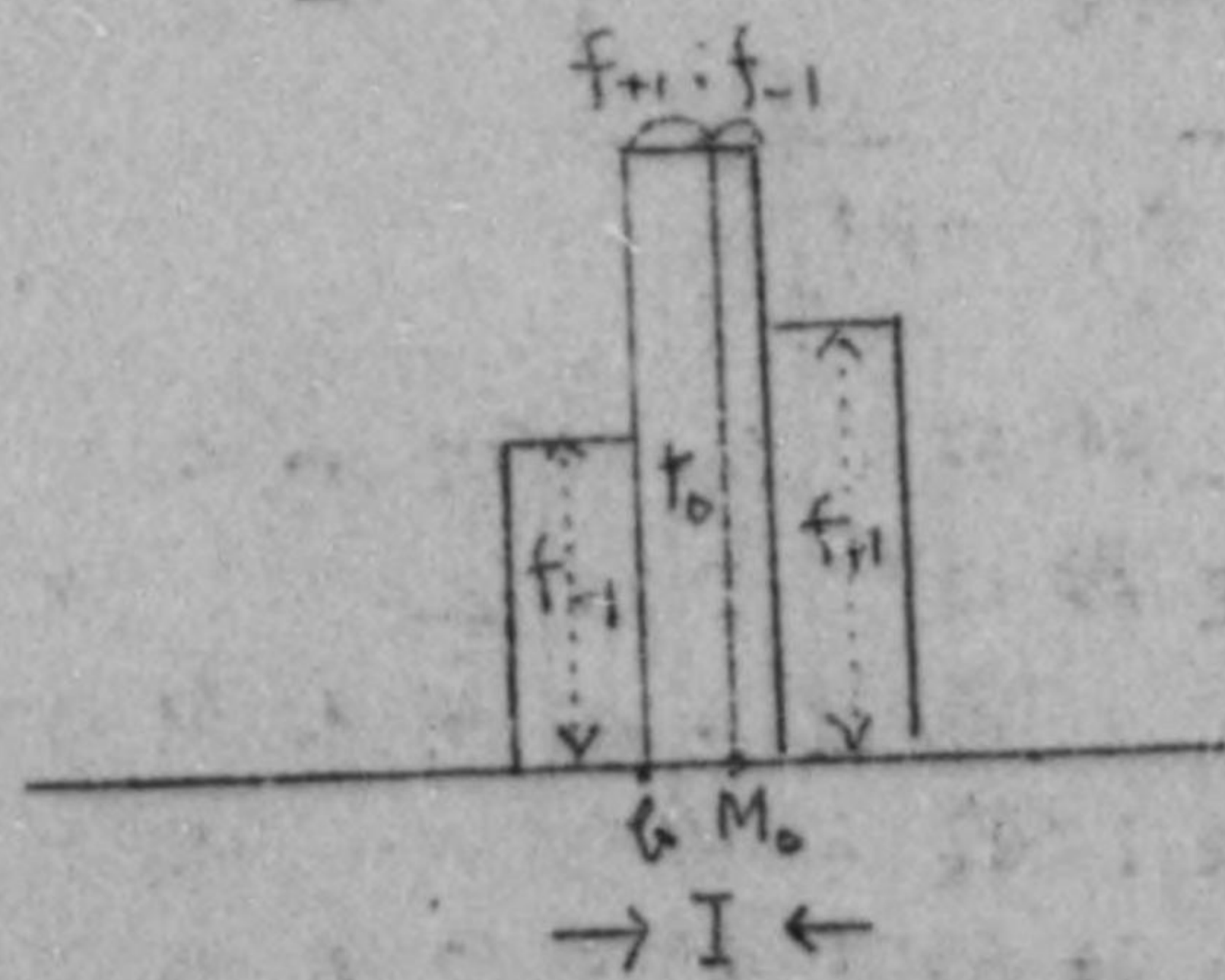
f₊₁ = the frequency of the class next higher than the modal class

b = the lower boundary of the modal class

I = the class width

(註) その他の方法

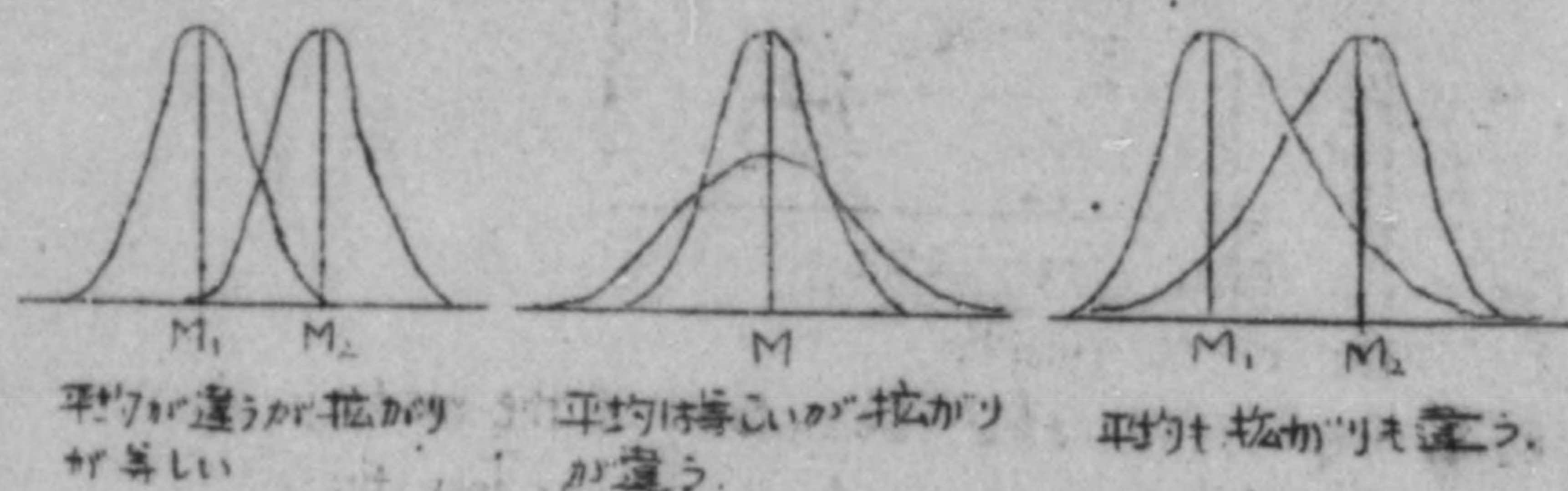
$$M_0 = b + I \left(\frac{f_0 - f_{-1}}{(f_0 - f_{-1}) + (f_0 - f_{+1})} \right)$$



X = 点を通る抛物線を求めmodeを求める方法あり (Richardson: An Introduction to sta. Analysis) 正確には高等数理統計の方法により、理想的曲線を当て嵌めて、その曲線の最大値を計算する。

2. Measurement of Dispersion

平均値だけでは度数分布の特性を表わすには不十分である。平均値のまわりにおける拡がり、散布の状態を表わす尺度が必要である。



普通、尺度としては

- ① Range (分散範囲)
- ② the Semi-interquartile range (四分位偏差)
- ③ the mean deviation (平均偏差)
- ④ the standard deviation (標準偏差)

の4つがあるが、一般に最も用いられるのは標準偏差である。

公式

$$\sigma = \sqrt{\frac{\sum x^2}{N}} = \sqrt{\frac{\sum (X-M)^2}{N}} \quad (6)$$

度数分布で与えられる時

$$\sigma = \sqrt{\frac{\sum x^2 f(x)}{N}} = \sqrt{\frac{\sum (X-M)^2 f(x)}{N}} \quad (7)$$

実際には次の式による簡便法を用いる。

$$\sigma = I \sqrt{\frac{\sum x'^2 f(x)}{N} - b_x^2} \quad (8)$$

$$x' = \frac{X-M'}{I}, \quad b_x = M' - M$$

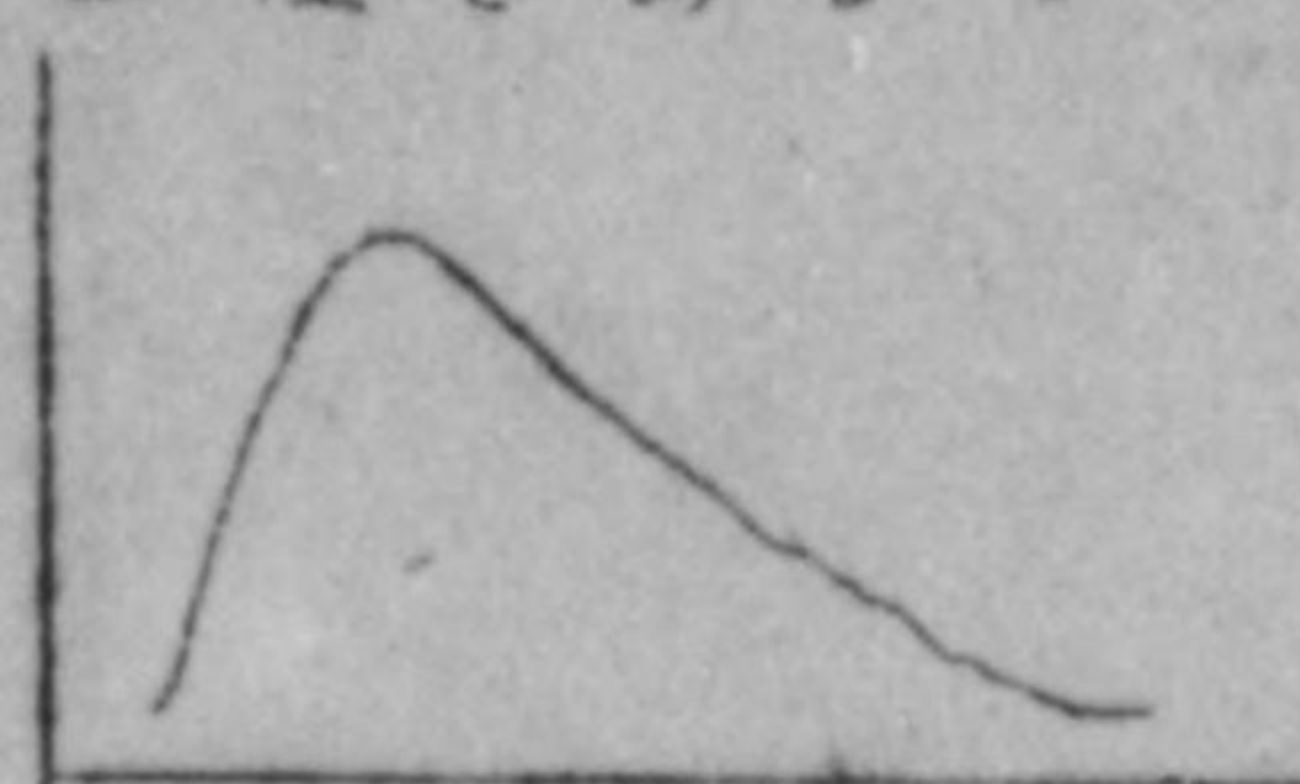
分散度は変量の分散の程度を絶対数で示してあるが、かくの如き絶対的分散度は変量が同種類にして、且つその平均値がほぼ等しい場合にのみ比較しうる。変量の性質が異なる時、平均値が異なる時は、上の分散度では比較しえない。従って、分散度を無名数で、変量値に対する相対的の大きさを考える必要がある。相対的分散度として、次の標準偏差係数を定義する

$$V = \frac{\sigma}{M} \times 100 \quad (9)$$

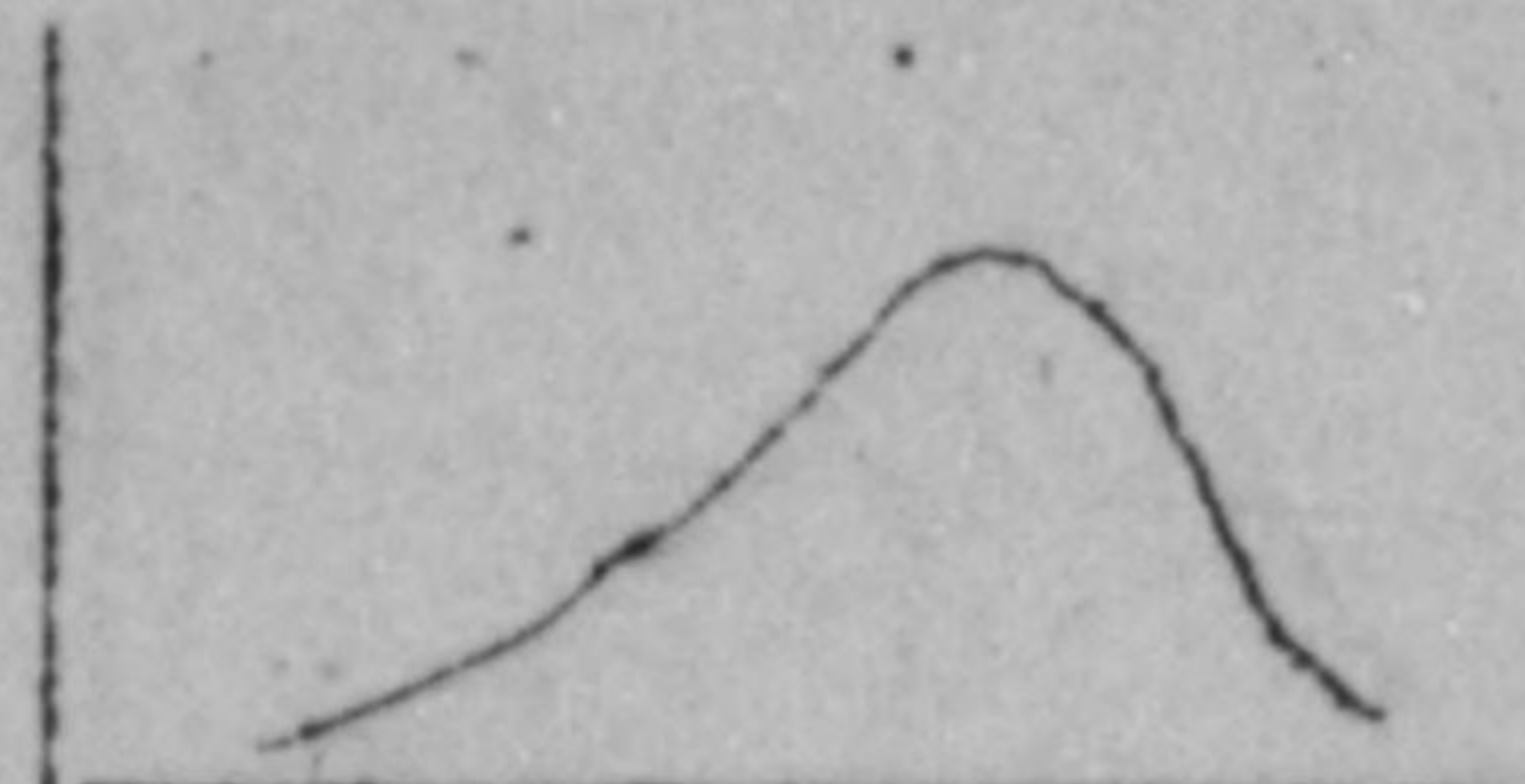
V は Coefficient of variation (変化係数) という。

3. Skewness 非対称度, 歪度.

非対称度とは度数分布型の対称性の欠除の程度と、その方向とを記述する測度である。



正負の非対称度



負の非対称度

この測度も色々あるが、次の式をもちいた。

$$\alpha_3 = \frac{\sqrt[3]{V_3}}{\sigma^3} \quad (10)$$

但し $V_3 = \frac{\sum x^3 f(x)}{N} = \frac{\sum (X-M)^3 f(x)}{N}$ the third moment about M

σ = standard deviation

註) α_3 の他に次の如きものがある

$$S_k = \frac{M - M_0}{\sigma}, \quad S_k = \frac{3(M - M_0)}{\sigma}, \quad S_k = \frac{Q_3 + Q_1 - 2M_0}{Q_3 - Q_1}$$

4. Excess or Kurtosis 尖峯度, 尖鋭度, 尖度

分布は M, σ, α_3 により十分特性づけられるが、さらに、平均の近く近くの変量の相対数を考えることにより、要約した記述に對する重要な測度を加える。

Excess or Kurtosis は次の式であらわされる。

$$K = \alpha_4 - 3 = \frac{\sum x^4 f(x) / N}{\sigma^4} - 3 \quad (11)$$

$$= \frac{\sqrt[4]{V_4}}{\sigma^2} - 3$$

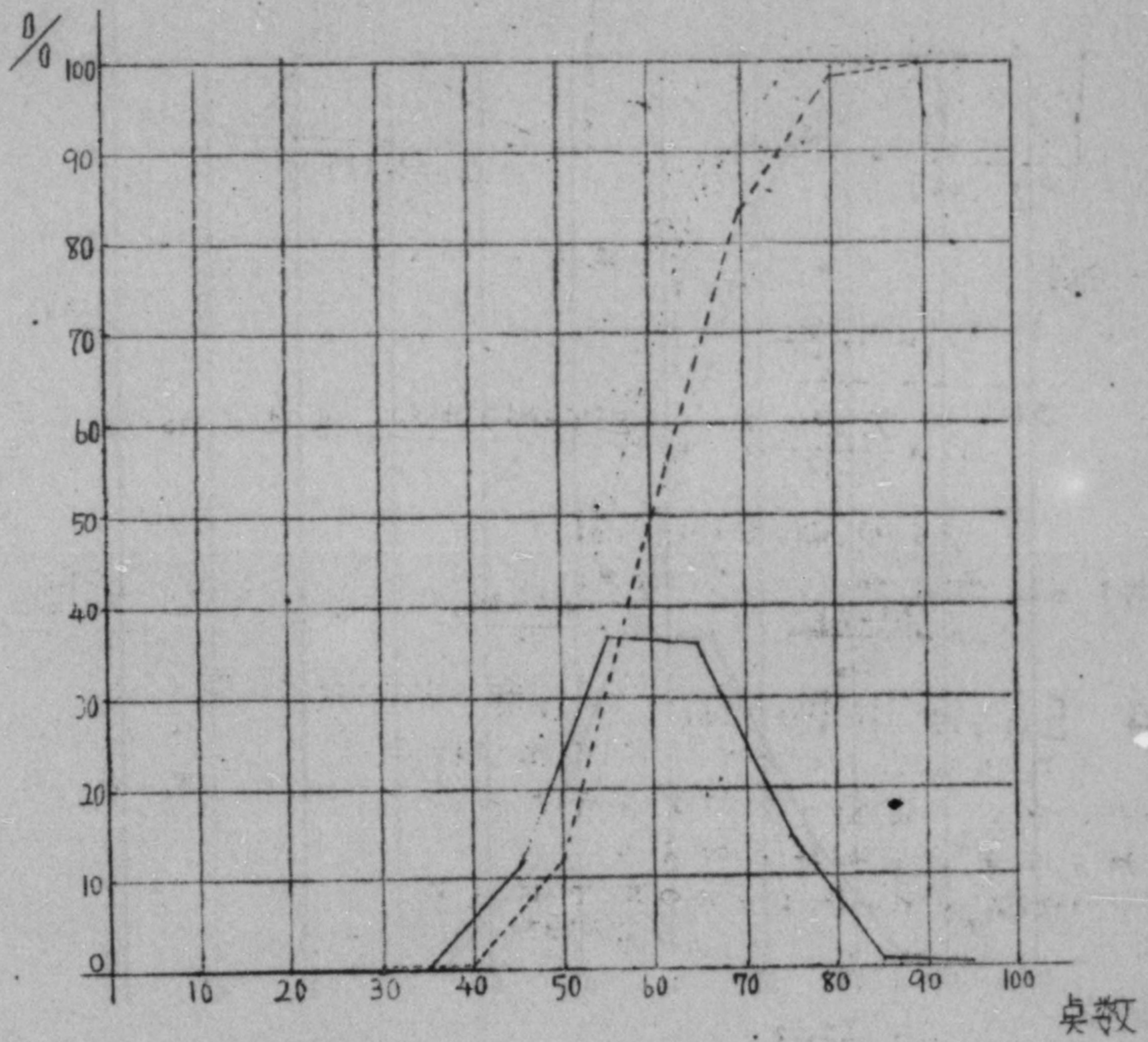
- $K=0$ mesokurtic 通常度
- $K<0$ platykurtic, broad 扁平
- $K>0$ leptokurtic, narrow 尖長

5. 総括

以上要するに、以下の計算には (3) (4) (5) (8) (9) (10) (11) を用いた、記号の再録すると。

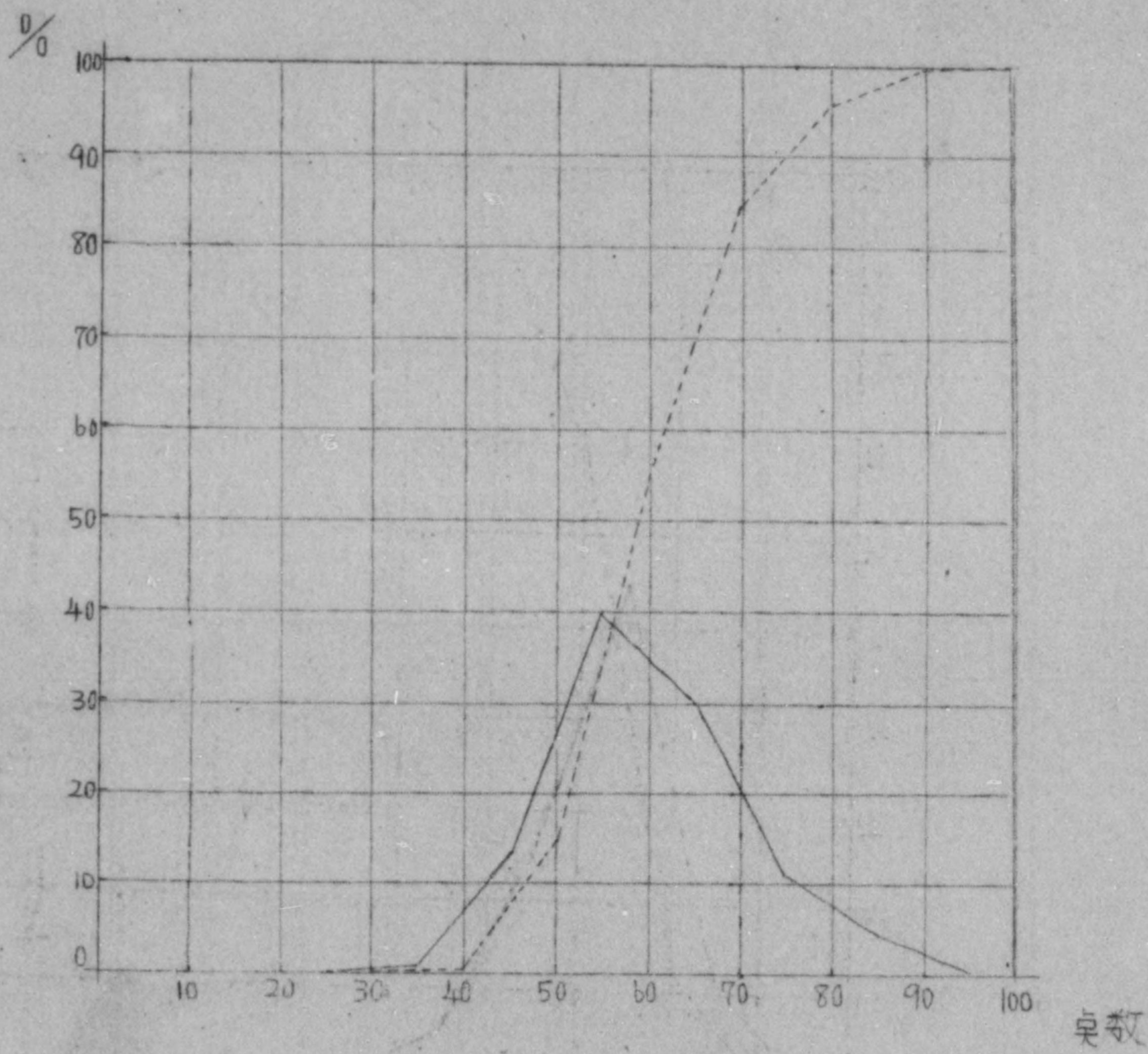
- M 算術平均
- M_e 中位数
- M_0 並数
- σ 標準偏差
- $V = \frac{\sigma}{M} \times 100$ 変化係数
- α_3 非対称度
- $K = \alpha_4 - 3$ 尖峯度

5. □ 語



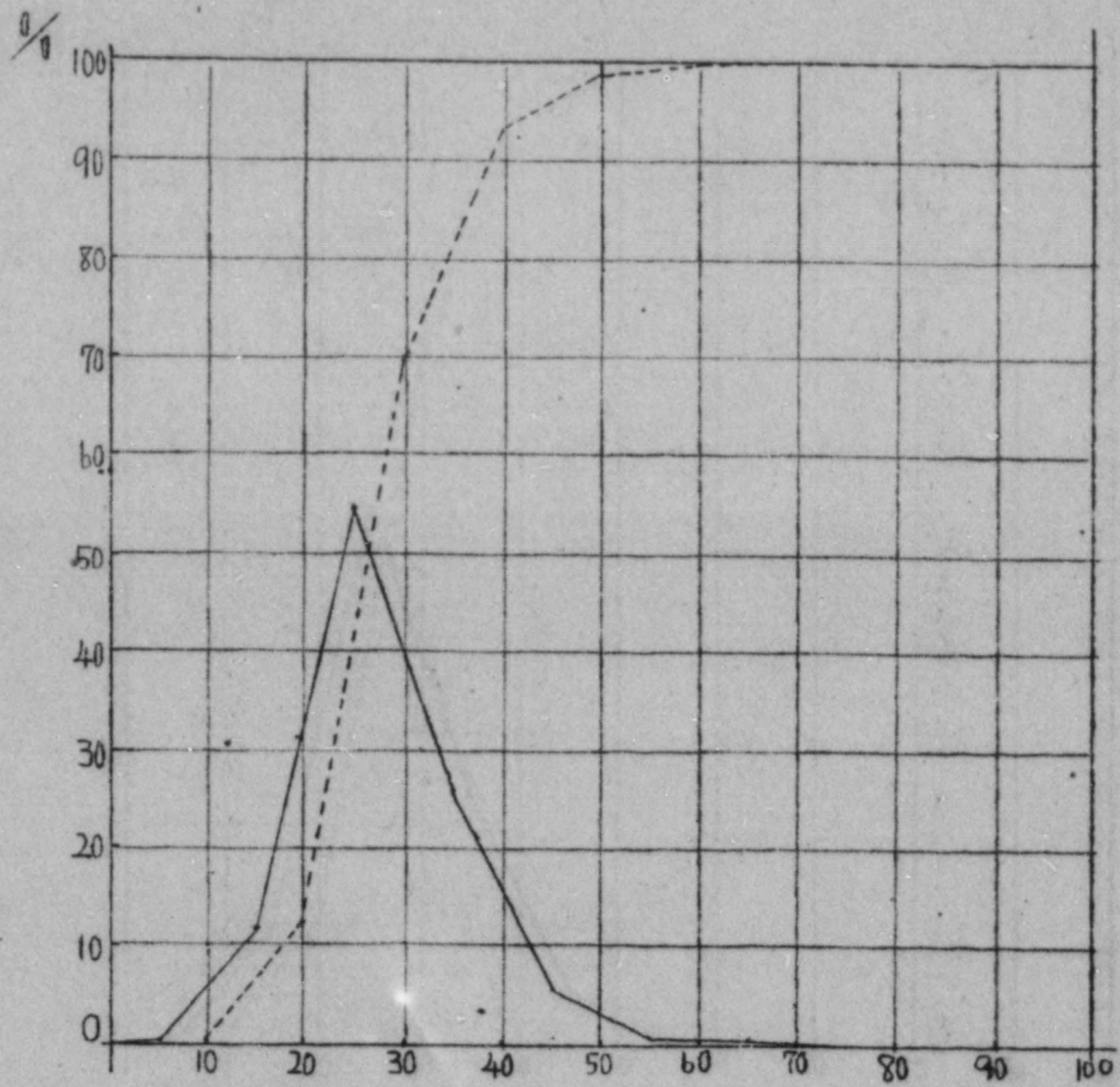
$M = 60.1$	$\sigma = 7.9$	$K = 3.2$
$M_e = 59.9$	$V = 13$	$\alpha_4 = 6.2$
$M_o = 57.1$	$\alpha_3 = 0.2$	

b. 社会



$M = 60.0$	$\sigma = 8.5$	$\alpha_4 = 4.3$
$M_e = 57.6$	$V = 14$	$K = 1.3$
$M_0 = 56.4$	$\alpha_3 = +0.7$	

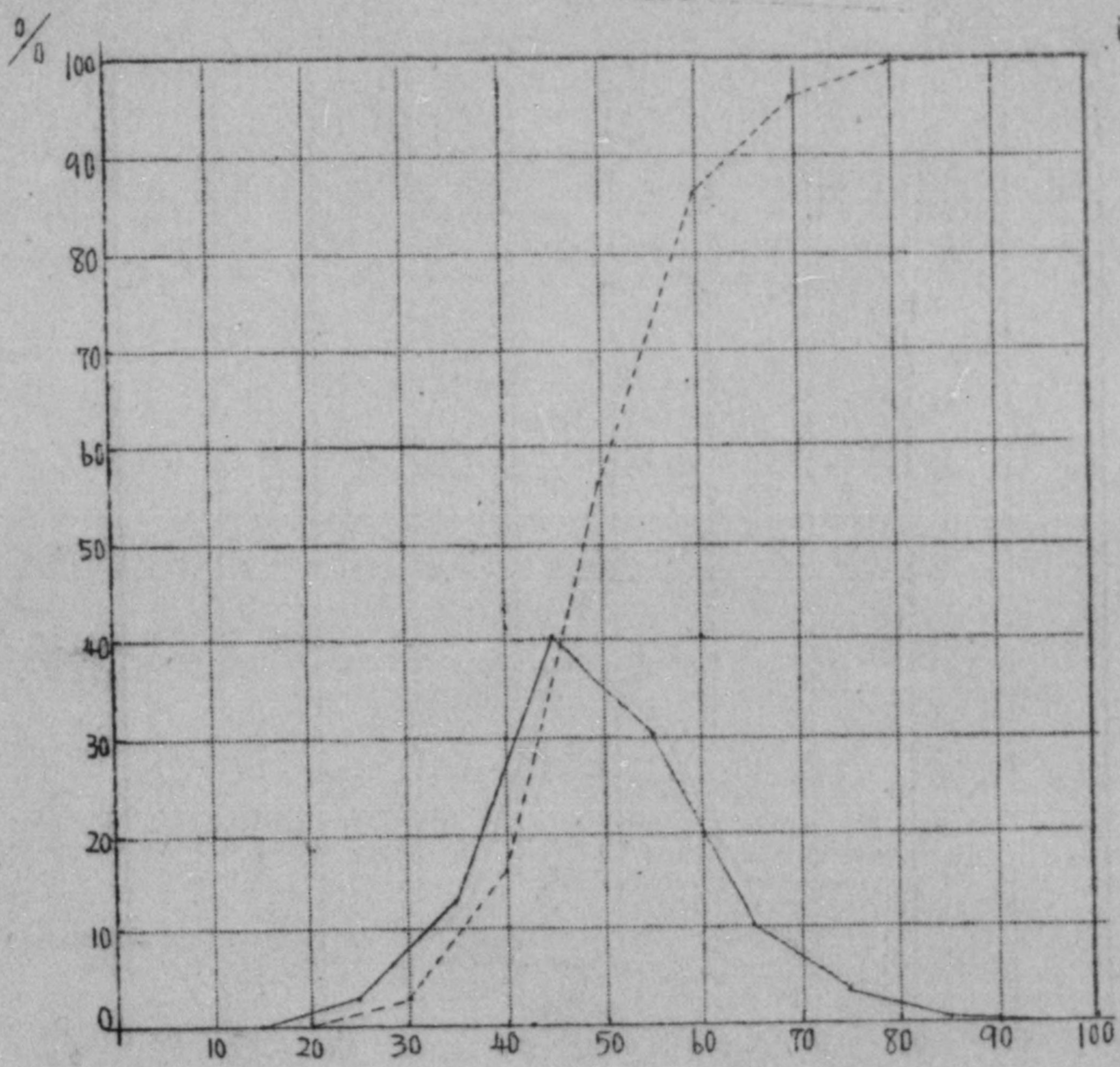
7. 数学



数学

$M = 27.5$	$\sigma = 6.8$	$\alpha_4 = +11.0$
$M_e = 26.4$	$\nabla = 28$	$K = 8.0$
$M_o = 26.3$	$\alpha_3 = +2.0$	

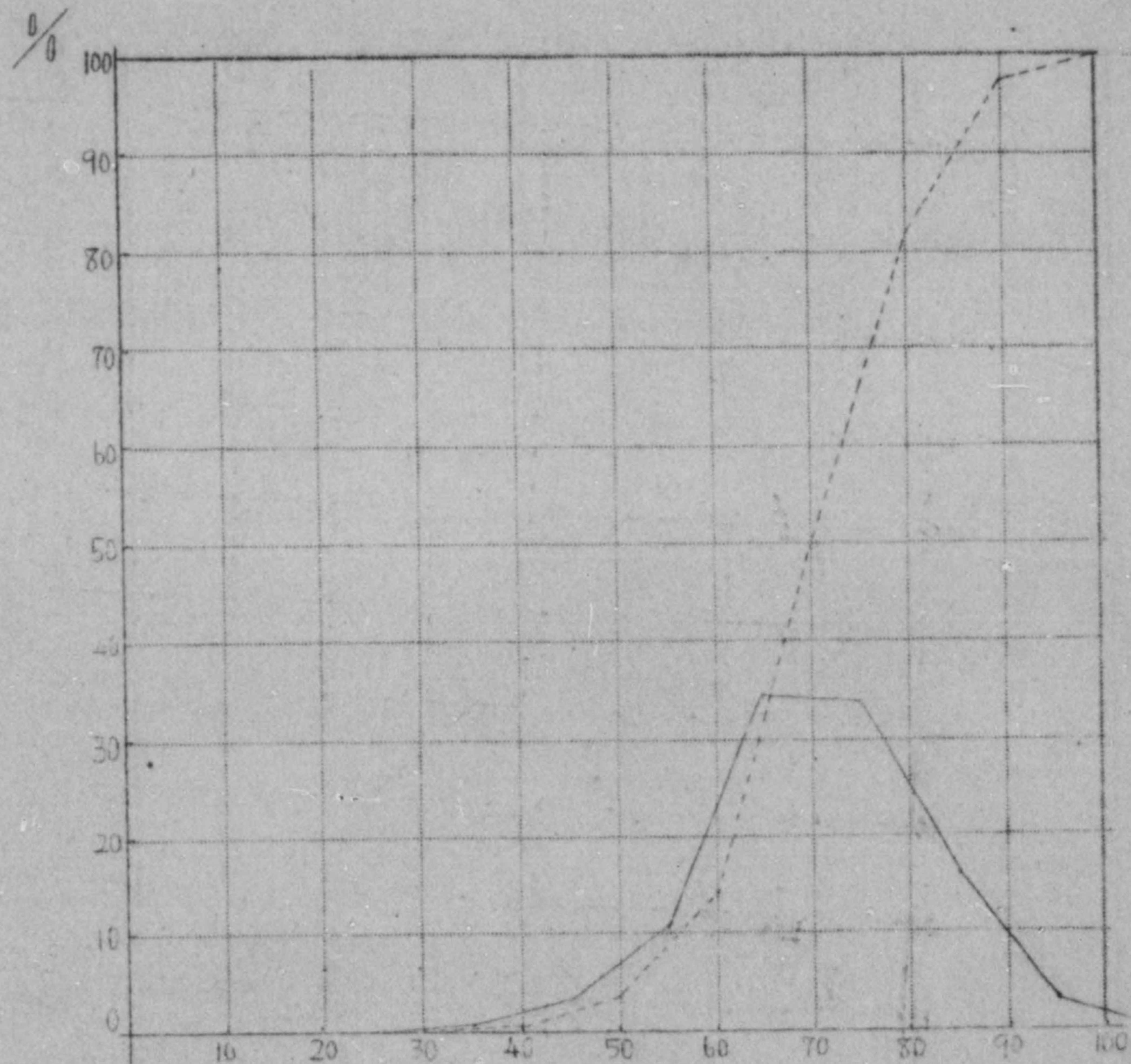
区理科



真教

$M = 48.9$	$\sigma = 8.0$	$\alpha_4 = 6.4$
$M_e = 48.0$	$\nabla = 16$	$K = 3.4$
$M_o = 46.5$	$\alpha_3 = +0.7$	

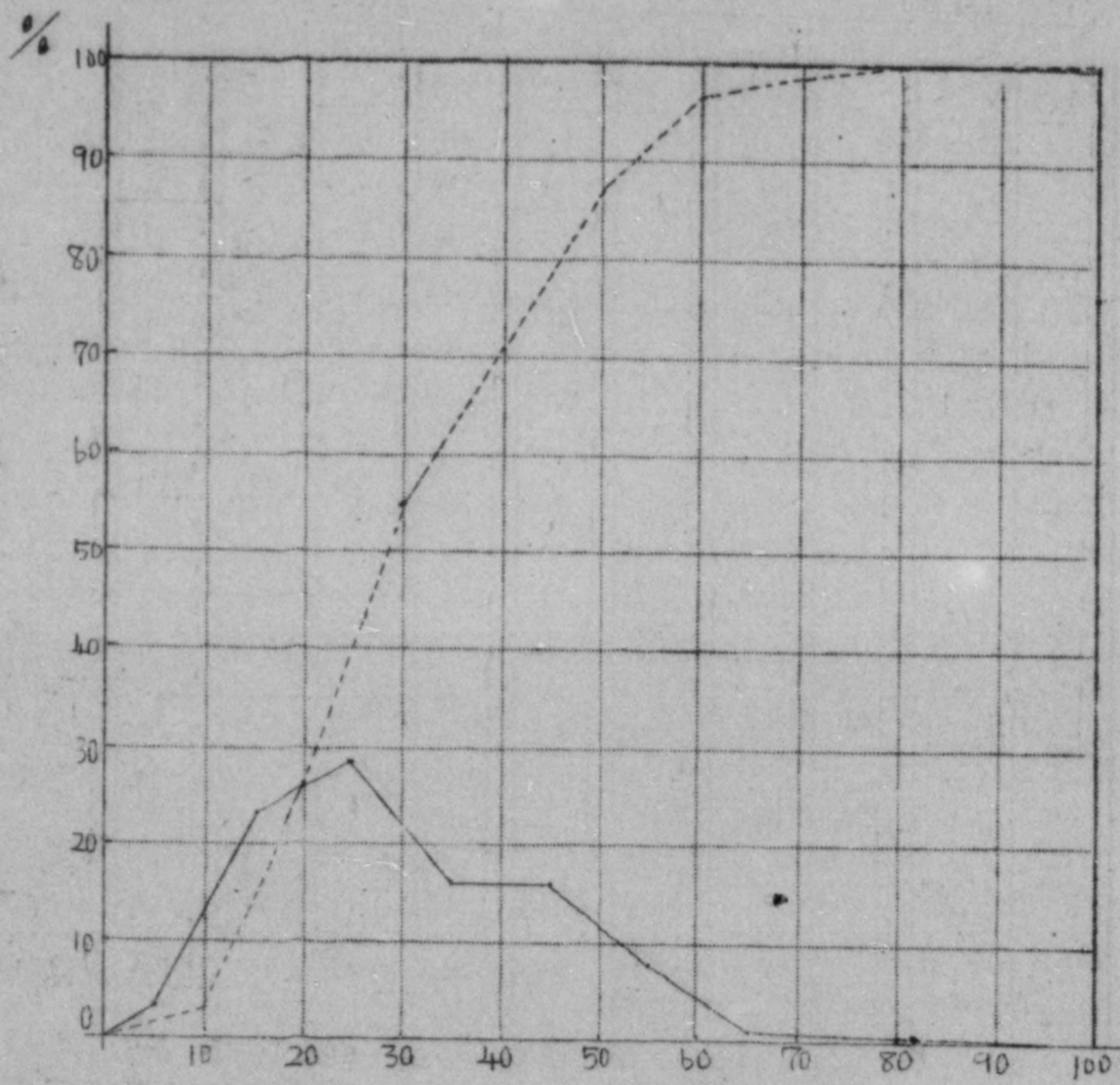
9. 取 集



取 集

$M = 70.0$	$\sigma = 7.9$	$\alpha_4 = 11.1$
$M_e = 70.0$	$V = 11$	$K = 8.1$
$M_o = 71.0$	$\alpha_3 = -0.5$	

10 英語



英語

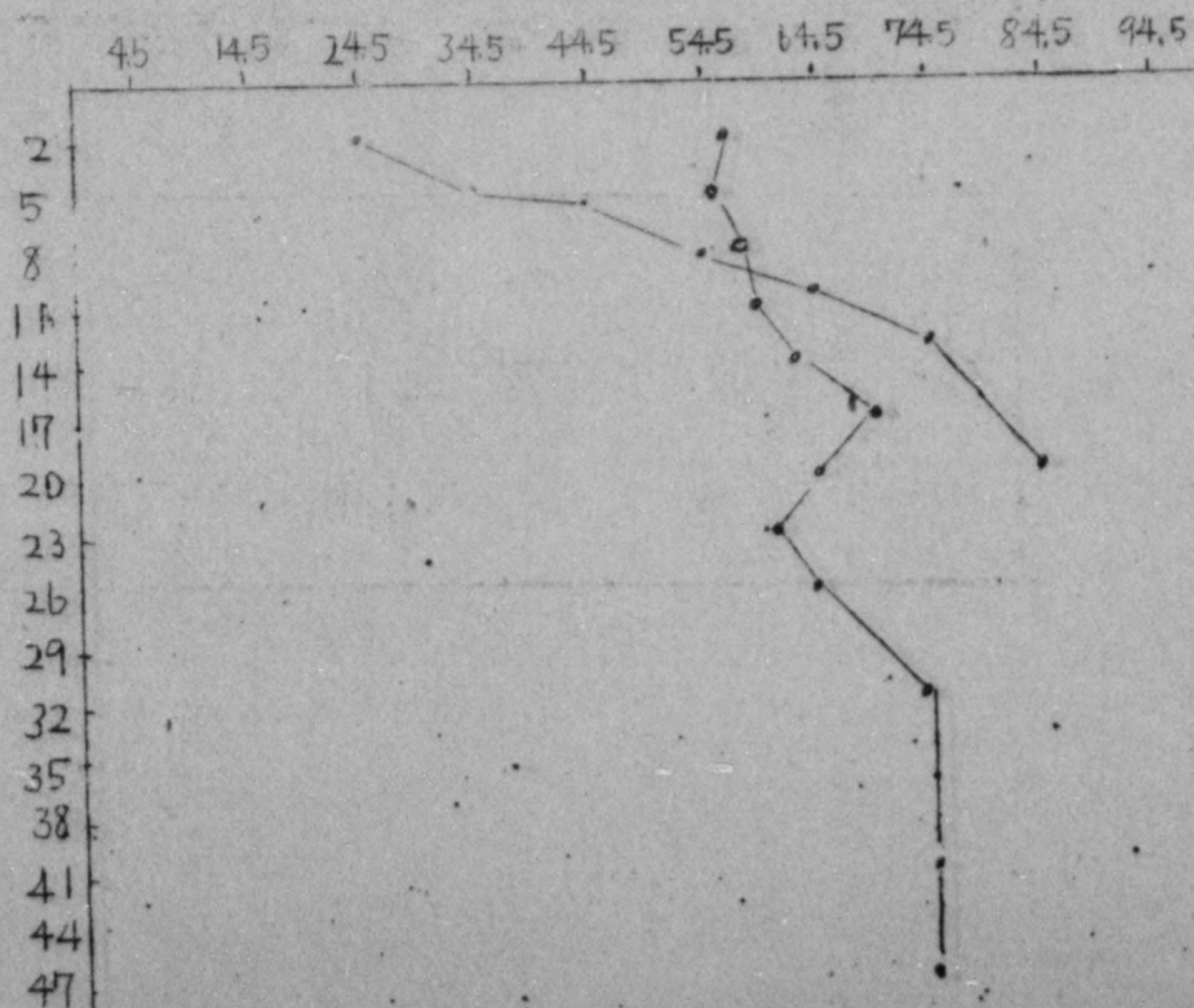
$M = 30.7$	$\sigma = 12.7$	$\alpha_4 = 14.5$
$M_e = 27.8$	$\nabla = 41$	$K = 11.5$
$M_0 = 23.6$	$\alpha_3 = +1.1$	

11. 学校の平均点と散算数の相関関係

相関表と退行線とを示しておく。

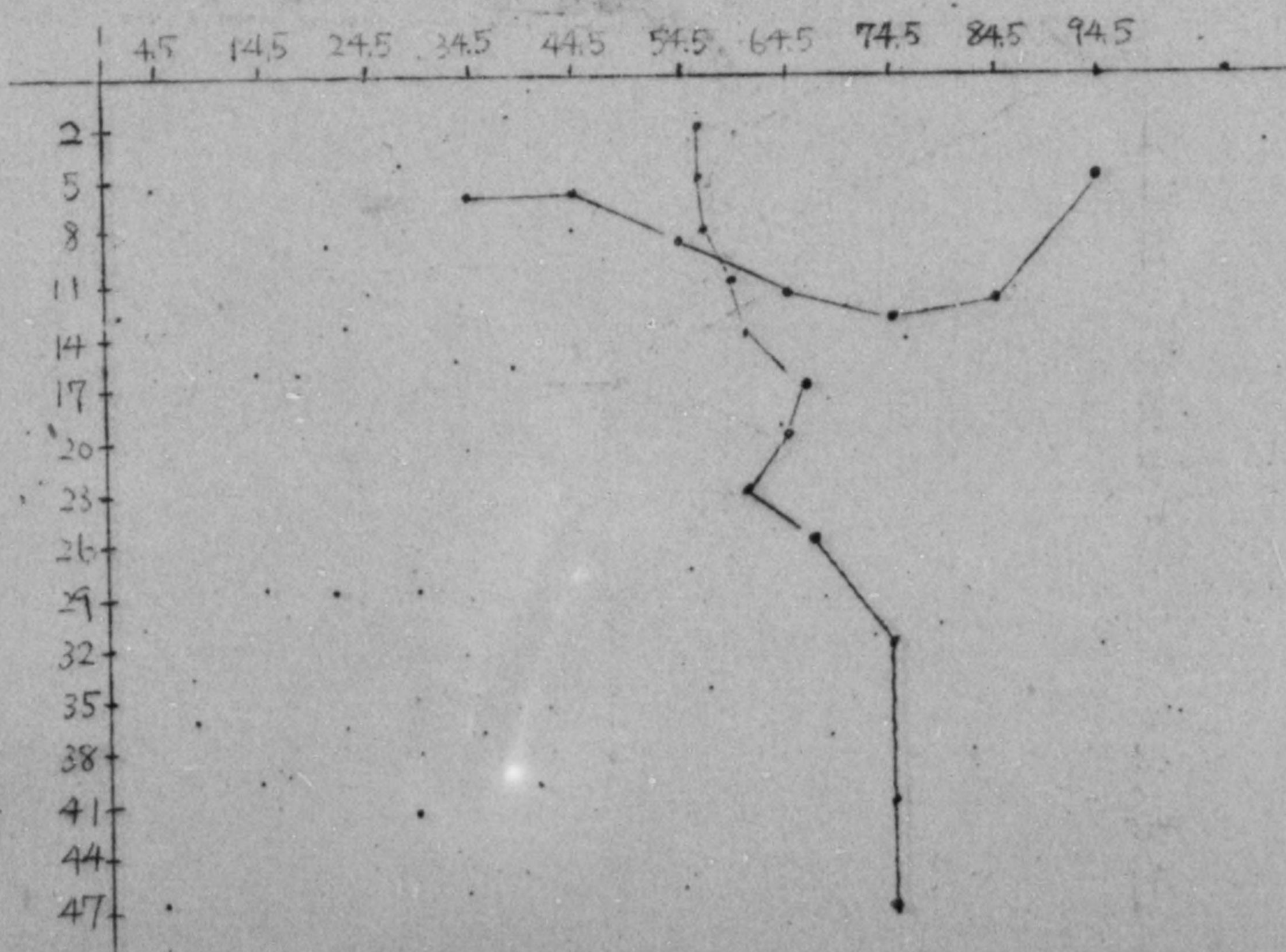
(i) 国語

平均点	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	計	平均
散算数	9	19	29	39	49	59	69	79	89	100		
1~3			1		4	3	5	3			16	57.0
4~6				1	17	35	18	7			78	56.2
7~9					4	17	15	3			39	58.9
10~12					2	20	22	3			47	60.0
13~15						8	7	6			21	63.5
16~18							3	4			7	70.2
19~21						2	1		1		4	64.5
22~24						2		1			3	61.2
25~27							6				6	64.5
28~30												
31~33								1			1	74.5
34~36												
37~39												
40~42								1			1	74.5
43~45									1		1	74.5
46~48												
計			1	1	27	87	77	30	1		224	
平均			2.0	5.0	5.4	8.3	10.2	13.1	20.0			



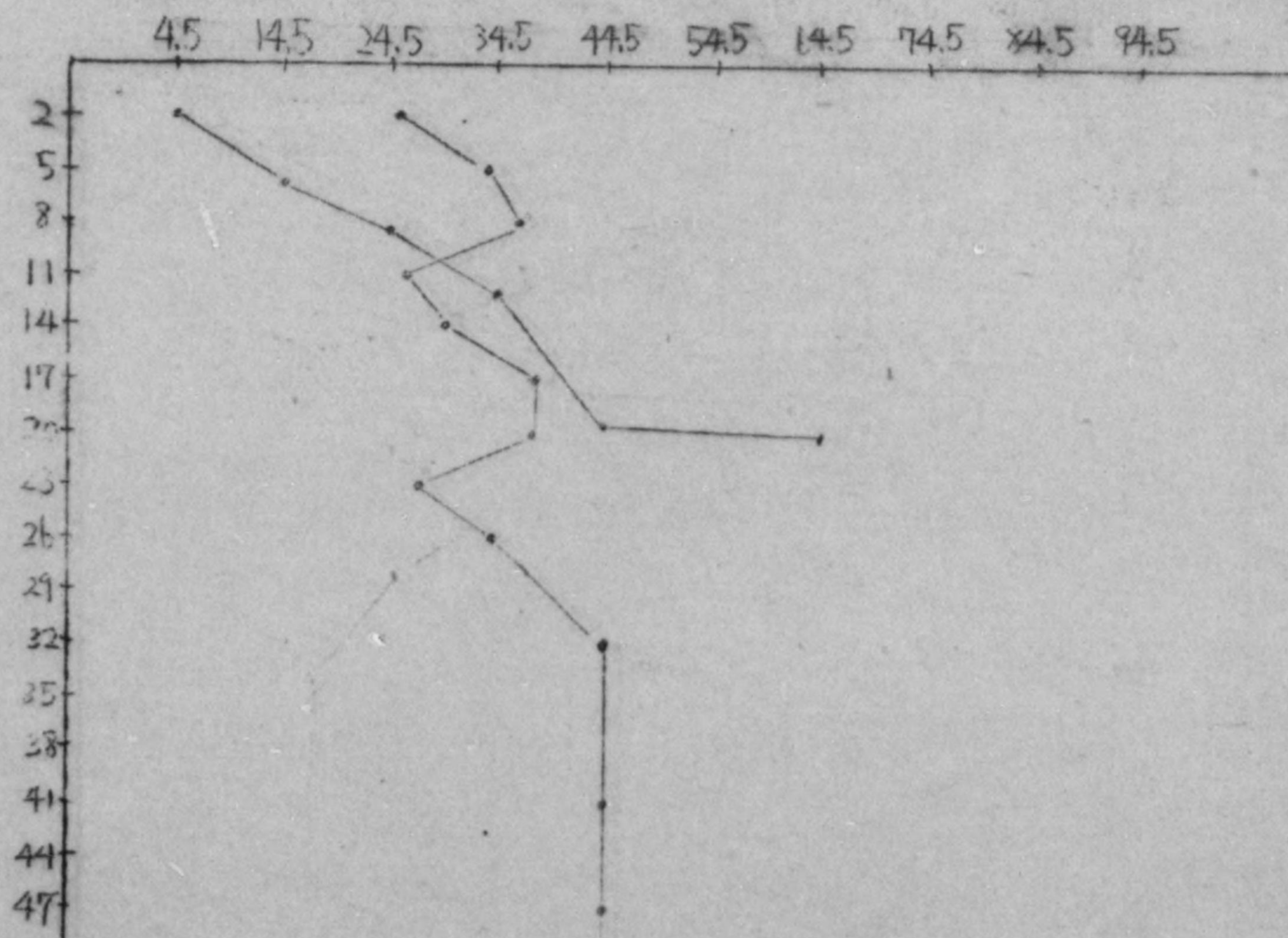
ii) 社会

平均桌 散員数	0 ~9	10 ~19	20 ~29	30 ~39	40 ~49	50 ~59	60 ~69	70 ~79	80 ~89	90 ~100	計	平均
1~3					4	8	2	1	1		16	56.7
4~6				2	20	33	13	7	2	1	78	56.2
7~9				1	6	18	11	3			39	56.8
10~12					2	24	16	3	2		47	60.0
13~15					1	9	7	3	1		21	61.6
16~18							6	1			7	65.9
19~21						2	1		1		4	64.5
22~24						1	2				3	61.2
25~27						1	4		1		6	66.2
28~30												
31~33								1			1	74.5
34~36												
37~39												
40~42								1			1	74.5
43~45												
46~48								1			1	74.5
計				3	33	96	62	21	8	1	224	
平均				6	5.8	8.4	11.2	13.0	11.8	5		



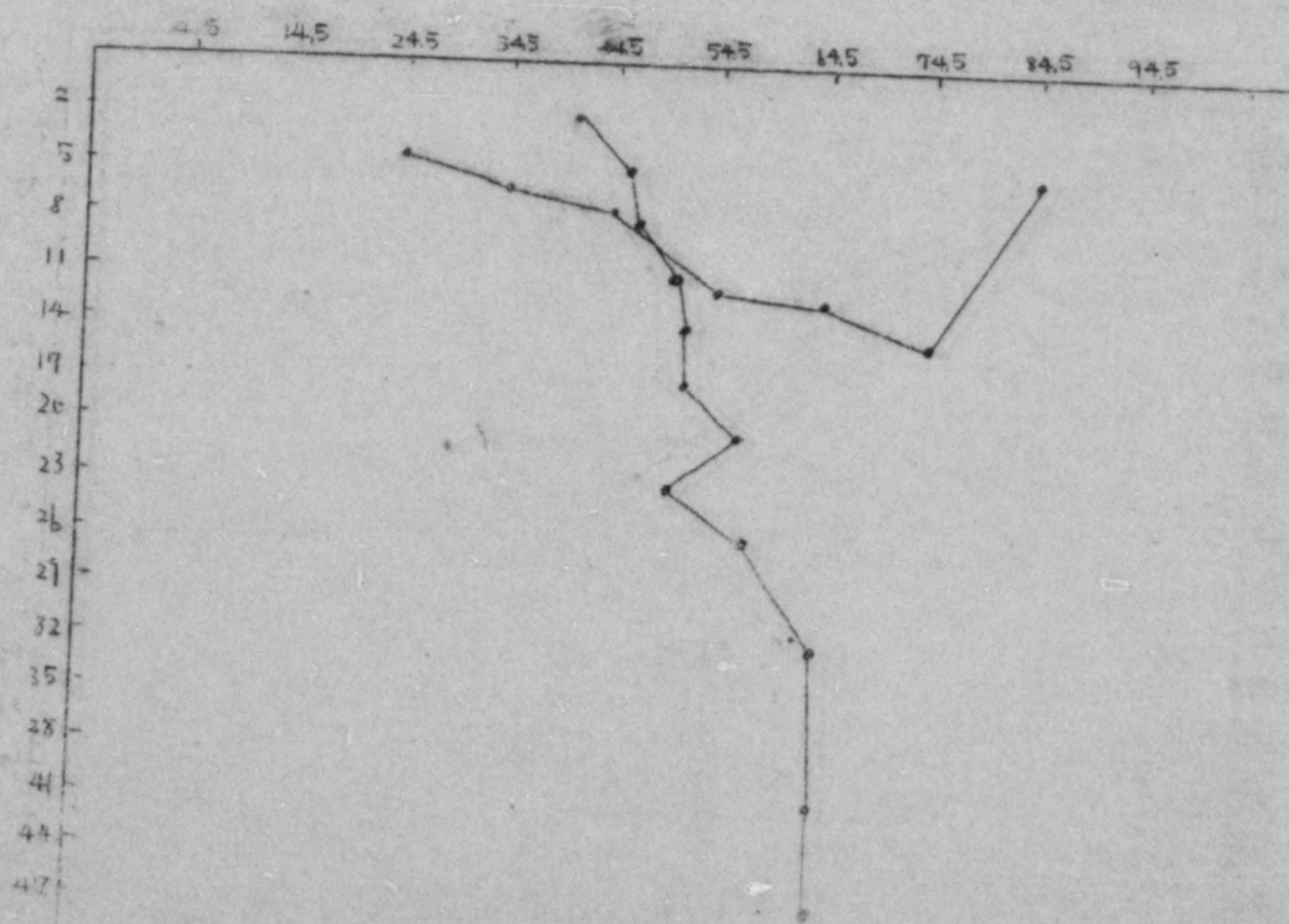
iii) 数学

教員数	平均点	0~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~89	90~100	計	平均
1~3		1	3	8	3	1						16	24.6
4~6			21	44	11	2						78	33.8
7~9			7	24	7	1						39	36.1
10~12			3	32	12							47	26.4
13~15			1	9	10	1						21	29.7
16~18					5	2						7	37.4
19~21				2	1			1				4	37.0
22~24				2	1							3	27.8
25~27				1	4	1						6	34.3
28~30													
31~33						1						1	44.5
34~36													
37~39													
40~42						1						1	44.5
43~45													
46~48						1						1	44.5
計		1	35	122	54	11		1				224	
平均		2.0	6.1	8.3	12.1	19.5		20.0					



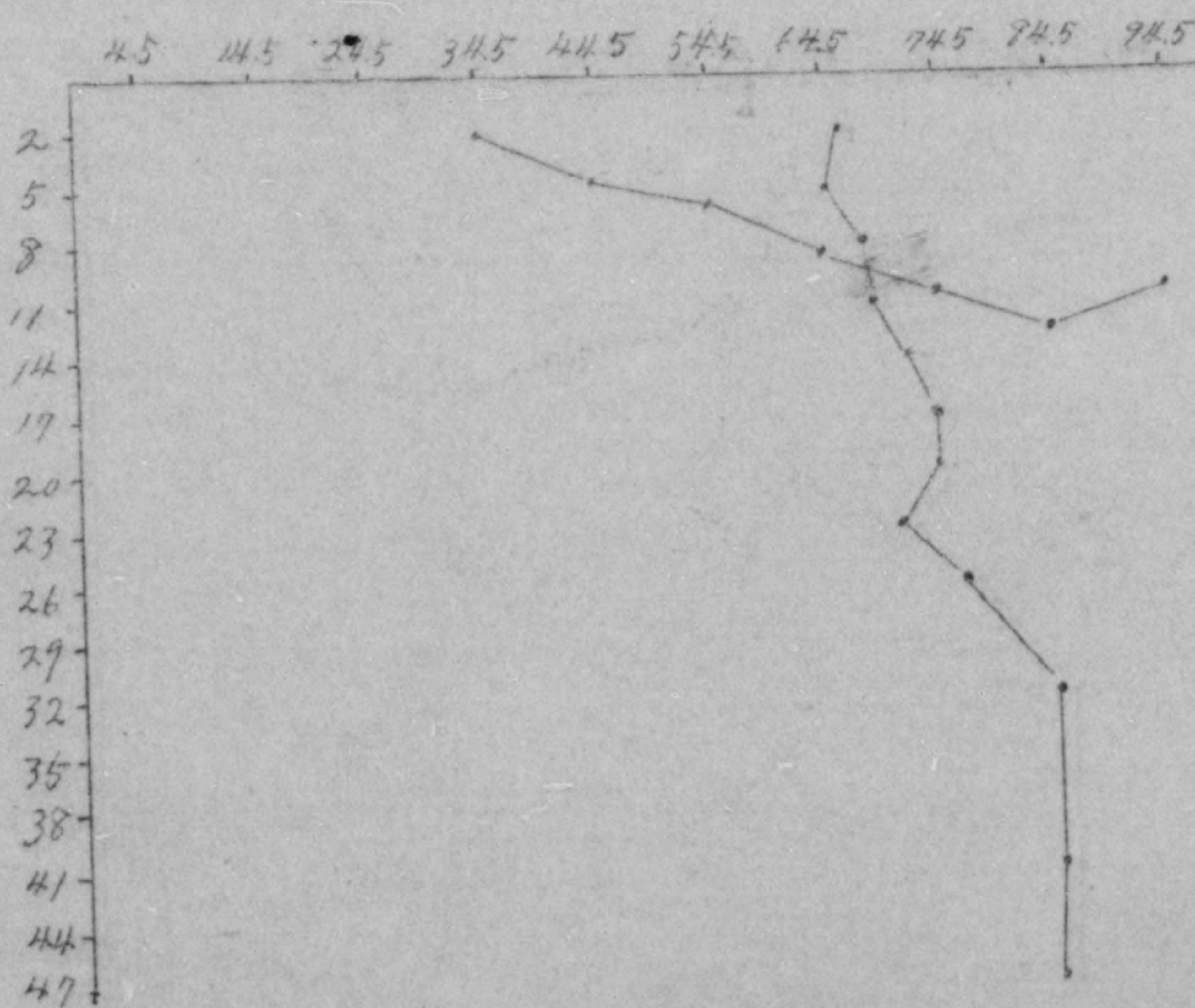
iv) 理科

平均点 数員数	0 ~ 9	10 ~ 19	20 ~ 29	30 ~ 39	40 ~ 49	50 ~ 59	60 ~ 69	70 ~ 79	80 ~ 89	90 ~ 100	計	平均
1~3			3	5	4	2	2				16	42.0
4~6			3	16	39	11	7	1	1		78	45.8
7~9			1	7	16	12	3				39	46.8
10~12				3	22	16	4	2			47	51.3
13~15				1	8	9	2	1			21	51.6
16~18					2	5					7	51.6
19~21					2		1	1			4	57.0
22~24					1	2					3	51.2
25~27						5		1			6	57.8
28~30												
31~33							1				1	64.5
34~36												
37~39												
40~42												
43~45							1				1	64.5
46~48												
計			7	32	94	62	22	6	1		1	14.5
平均			4.1	6.0	7.0	11.6	12.5	14.5	5		224	



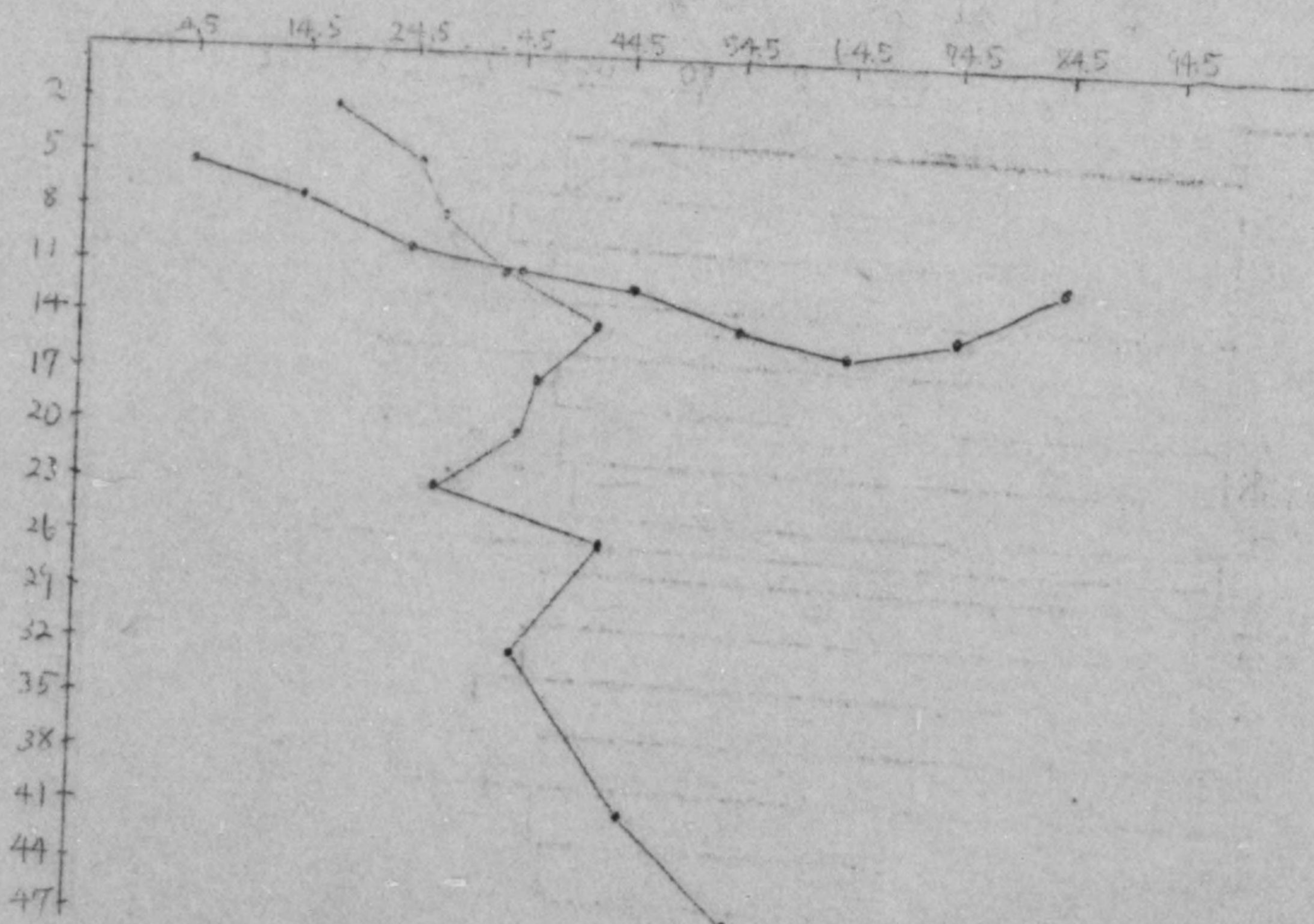
v) 職業

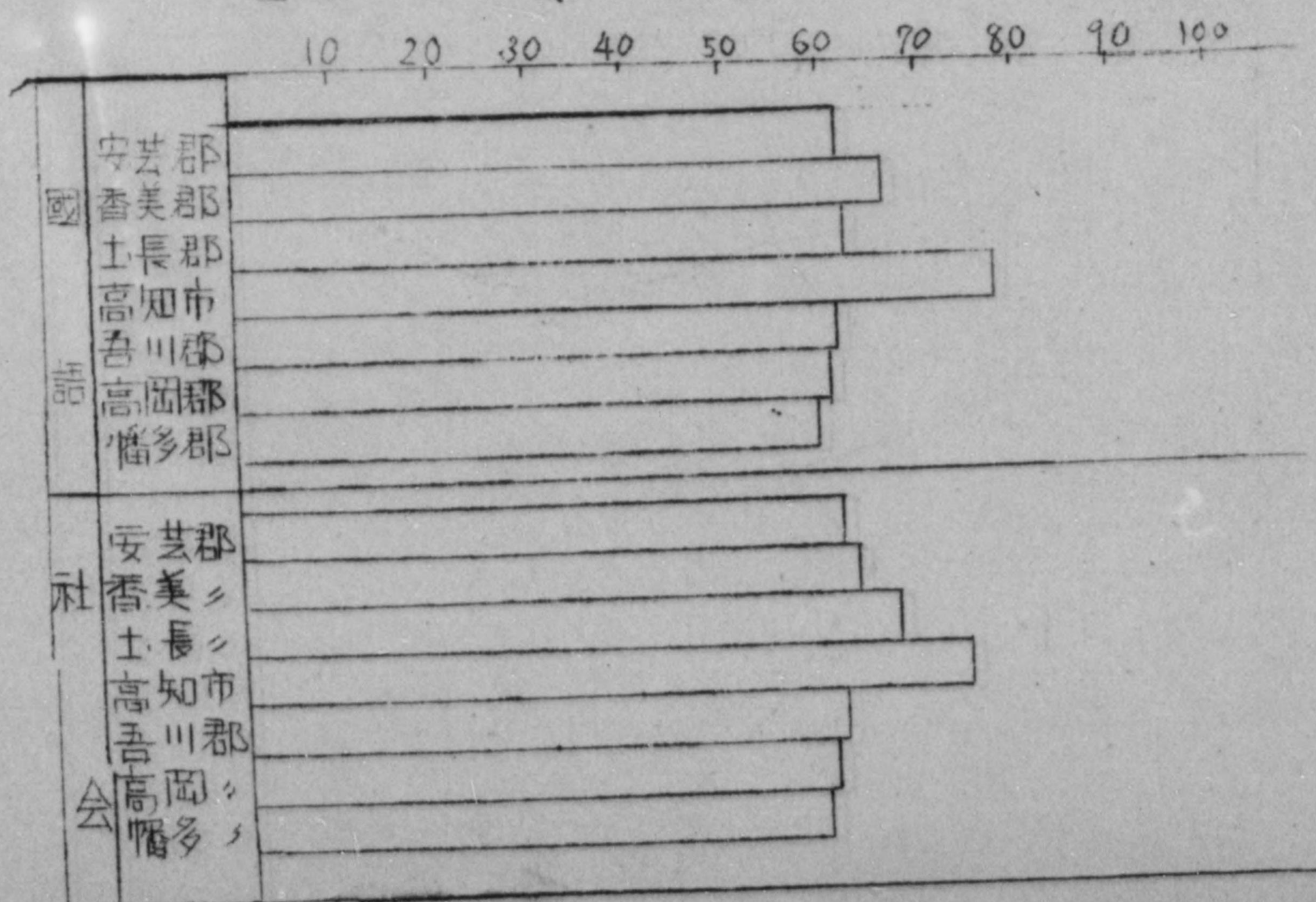
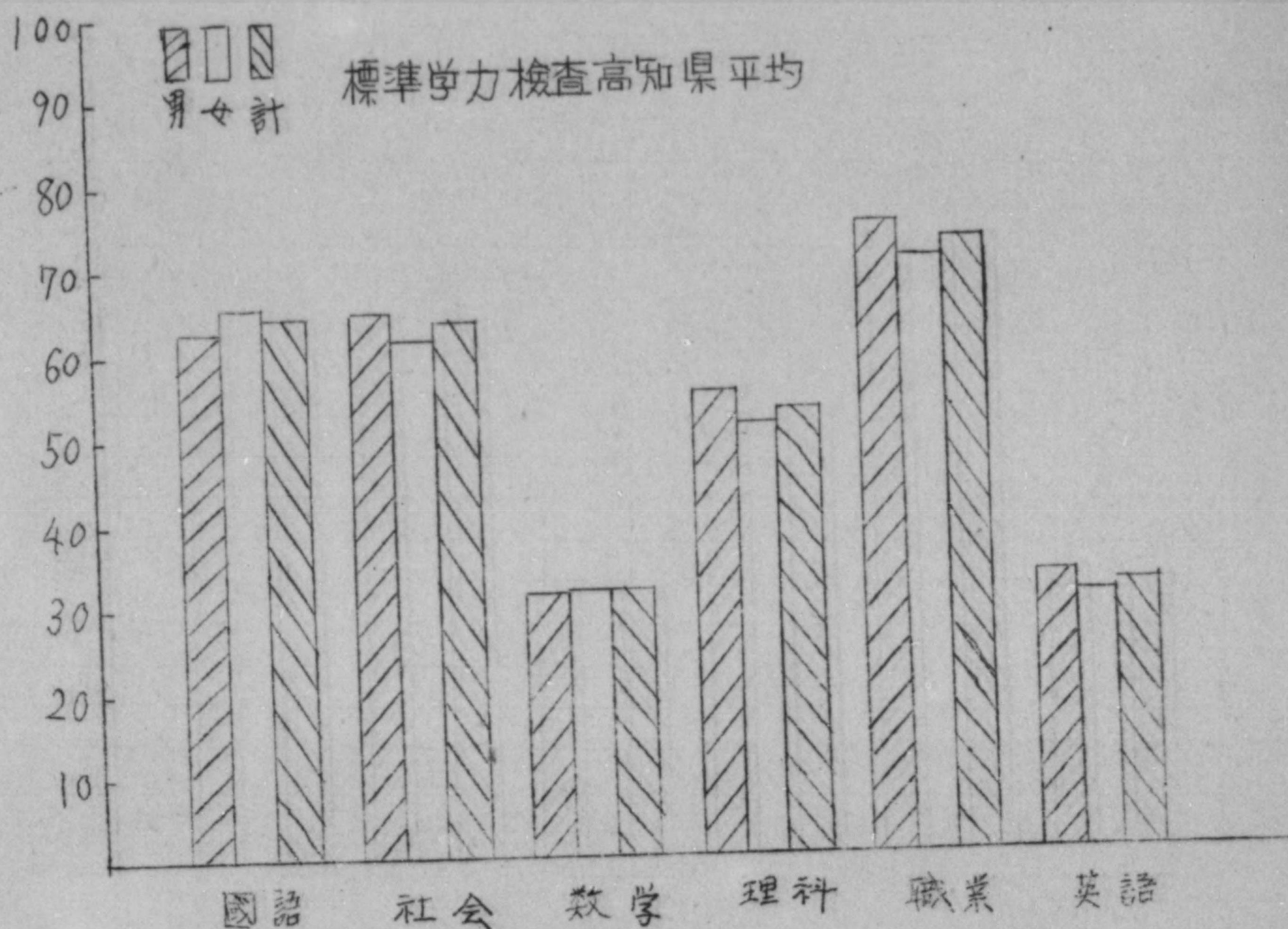
職業	0~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~89	90~100	合計	平均
1~3				1	2	7	6	3	2		16	65.6
4~6					5	17	29	17	9		78	64.9
7~9					1	3	14	18	3		39	68.6
10~12						3	19	19	6		47	69.2
13~15							7	8	5	1	21	72.1
16~18							1	5	1		7	74.5
19~21							2	1		1	4	74.5
22~24							2		1		3	71.0
25~27								5	1		6	76.1
28~30												
31~33									1		1	84.5
34~36												
37~39												
40~42									1		1	84.5
43~45												
46~48									1		1	84.5
計				1	8	24	80	76	31	4	224	
平均				2.0	11.6	6.0	3.5	10.5	12.6	10.3		

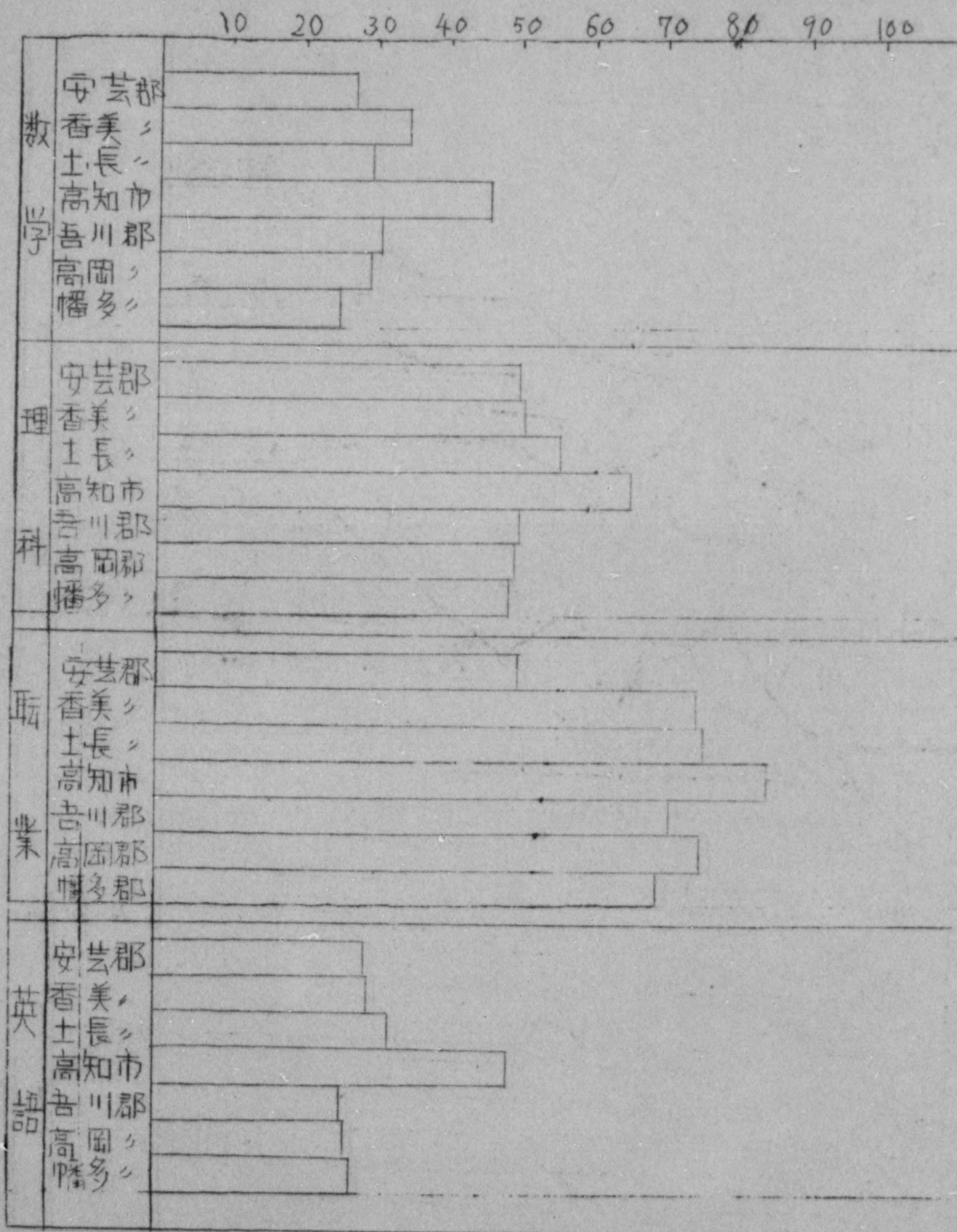


(iv) 英語

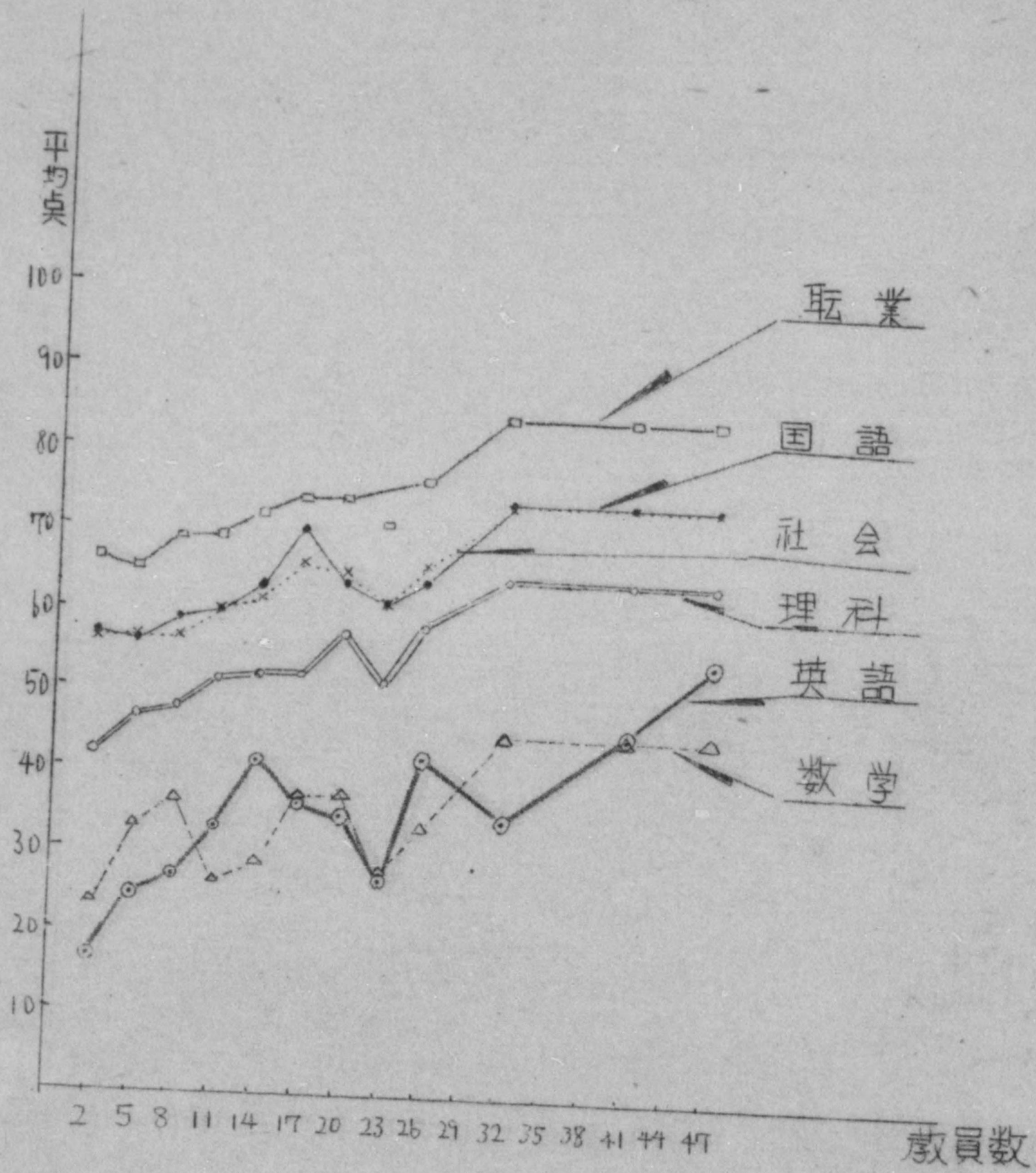
平均値 級数	0 ~ 9	10 ~ 19	20 ~ 29	30 ~ 39	40 ~ 49	50 ~ 59	60 ~ 69	70 ~ 79	80 ~ 89	90 ~ 100	計	平均
1~3	2	3	3	1							9	17.3
4~6	6	25	20	8	9	3	1				72	24.8
7~9	1	11	11	9	2	3					37	26.9
10~12	1	8	13	9	8	5	1		1		46	33.2
13~15		1	3	4	8	4		1			21	41.6
16~18			2	3	2						7	35.9
19~21			3								4	34.5
22~24		1	2	1							4	27.0
25~27			2	1		1	1				5	42.5
28~30												
31~33				1							1	34.5
34~36												
37~39												
40~42					1							
43~45											1	44.5
46~48												
計	10	49	59	37	29	16	4	1	1		1	54.5
平均	5.3	7.0	9.7	10.8	11.6	13.9	15.5	14.0	11.0		208	







13. 教員数別平均点



1270

Table Contents

- Chapter 1. How to mark on "school register"
- Chapter 2. How to mark on the column of "Researches of family circumstances and attendance"
- Chapter 3. How to mark on the column of "Standard Achievement Test"
- Chapter 4. How to mark on the column of "Summary of physical development"
- Chapter 5. How to mark on the column of "Record of professional development"
- Chapter 6. How to mark on the column of "Record of development of study"

A. Lower Secondary School

1. General explanation
2. Evaluation of each subject
 - a. National language
 - b. Social study
 - c. Mathematics
 - d. Science
 - e. Music
 - f. Drawing and handcraft
 - g. Health and physical education
 - h. Vocational and domestic science
 - i. Foreign language
 - j. Special educational activities

B. Upper Secondary School

1. General explanation
2. Evaluation of each subject
 - a. National language (Chinese)
 - b. Science
 - c. Music
 - d. Drawing
 - e. Calligraphy
 - f. Handcraft
 - g. Domestic Science
 - h. Agriculture
 - i. Technical
 - j. Commerce
 - k. Special education activities

- Chapter 7. How to mark on the column of "Personal, social and civic development"
- Chapter 8. How to mark on the column of "Record on how to meet difficulties"
- Chapter 9. How to mark on the column of "Record of units (U.S.S.)"

Appendix (1) Forms

1. "Student Guidance Record of L. S. S. in Ehime Prefecture"
2. "Student Guidance Record of U. S. S. in Ehime Prefecture"

*Elaine Dowd and others S. D.
"Summary Guidance Record"
1950*

愛媛縣中學校高等學校
指導要録の手引

*by Elaine Board of Education
Elaine Teachers Union*

1950

愛媛縣教育委員會
愛媛縣教員組合

目 次

- 第一章 まえがき (付) 記入上の一般的注意
- 第二章 「身上及び出欠調査」欄の記入法
- 第三章 「標準検査」欄の記入法
- 第四章 「身体的発達の要約」欄の記入法
- 第五章 「職業的発達記録」欄の記入法
- 第六章 「学習成績の発達記録」欄の記入法
- A、中 学 校 の 部
- 1 総 説
- 2 各 教 科 の 評 價 法
- (一) 國 語 科
- (二) 社 會 科
- (三) 数 學 科
- (四) 理 科
- (五) 音 樂 科
- (六) 図 画 工 作 科
- (七) 保 健 体 育 科
- (八) 職 業、家 庭 科
- (九) 外 國 語 科
- (十) 特 別 教 育 活 動
- B、高 等 学 校 の 部
- 1 総 説
- 2 各 教 科、科 目 の 評 價 法
- (國語科、社會科、數学科、理科、保健体育科、外國語科については中學校の部参照のこと)
- (一) 國 語 科 (漢文科)
- (二) 理 科
- (三) 藝 能 科 音 樂
- (四) 藝 能 科 図 畫
- (五) 藝 能 科 書 道
- (六) 藝 能 工 作
- (七) 家 庭 科
- (八) 農 業 課 程
- (九) 工 業 課 程
- (十) 商 業 課 程
- (十一) 特 別 教 育 活 動
- 第七章 「個人的、社會的、公民的発達記録」欄の記入法
- 第八章 「困難及びその適應についての記録」欄の記入法
- 第九章 「履習單位の記録」欄 (高等學校) の記入法
- (附録) (一) 「愛媛縣中學校生徒指導要録」の様式
- (二) 「愛媛縣高等學校生徒指導要録」の様式

第一章 ま え が き

小学校の新しい学籍簿については昭和23年11月12日付で文部省から「小学校の学籍簿」という名称で発表され、又中学校、高等学校の新しい学籍簿については、昭和24年7月1日付文部省発行の手引書「中学校、高等学校の生徒指導」で、「中学校、高等学校累加記録摘要」という名称で発表されて、広く使用されることになつたのである。ところが、これらの発表はいずれも暫定的なものであつてその名称、取扱の点、記入事項、記入の方法などについては不統一や未解決の問題が残されていたのであるが、昨年8月25日付の文部省の通知「中学校、高等学校の生徒指導要録について」及び9月22日付の「学籍簿の名称並びにその取扱について」によつて、新しい学籍簿はようやくその性格と取扱とが定つたのである。

(一) 名 称

小学校は「児童指導要録」中学校、高等学校では、それぞれ「中学校生徒指導要録」「高等学校生徒指導要録」と改められた。

生徒一人一人の成長の記録こそ、これからいかに育ていくかの教育計画を立てるために欠くことのできないものであつて、新しい学籍簿が工夫されるようになったのは、全くそのためである。

(二) 様式の決定

さきの8月25日付の通知によつて、文部省から、その様式が示されたのであるが、これは一つの試案であつて、それを参考の上、各学校又は地方ごとに、それぞれの特殊性や教育方針に應じて決定することになつている。

しかし、各学校や地方ごとに様式を異にするということは上級学校への進学又は転校などの場合にいろいろ不便が生ずると思われるので、愛媛縣教育委員会では、生徒指導要録制定委員会を設けて、文部省案を基準として、別紙の如き様式を決定したのである。

(三) 本様式の使用について

本様式は、昭和25年4月に中学校及び高等学校に入学する生徒から使用することとし、現在中学校、高等学校に在学している者に對し既に使用中のものは、そのまま継続使用しても差支えない。

(勿論、新様式に変更してもよい。)

(四) 進学、転学の場合の取扱

新しい指導要録は、児童、生徒の指導の目的を達成するために利用されるものであるから、上級学校への進学又は他の学校への転学に際しては、児童、生徒の指導要録又はその寫をそれぞれ進学先又は転学先の学校長へ送付することになつている。この指導要録又はその写によつて、児童生徒を受け入れた学校は、児童、生徒をよく理解することができよりよき指導を進めることができるのである。そして、その指導要録又はその写は、その生徒の最終学校において、自校で作製した指導要録と共に、十ヶ年以上保存しておく事になるのである。

(五) 学籍簿について

こゝで「学籍簿」というのは、先の8月25日付通知にもあつた通り、上級進学や転学によつて、ある生徒の指導要録か又はその写が他校に移つた場合、母校において、その生徒の在籍した記録をとるものをいうのである。これは、在籍した児童、生徒の指導要録か、写しのない場合に作るもので、その記載事項についても、文部省から大体の項目が示されていることは、9月22日付の通知の通りであるが、本縣としての学籍簿の様式については、追つて通知する豫定である。

(六) 指導要録の使用法について

イ、下級の學校から送付された本人の指導要録は、新たに作製したその學校での本人の指導要録と一緒に綴じておき、本人の小學校から今日に至る發展及び指導の跡をつまびらかにして常に指導に便しておかねばならない。

ロ、指導要録は常時指導擔任教師の記入、閱覽に便であるよう、管理されねばならない。

ハ、中學校より送つて來た要録は高等学校で作つた本人の要録と一緒に綴じておく。その際中高の別をはつきりさせるため用紙の上辺を中は赤、高は緑で色刷りされてある。

(七) 本手引書について

以上の趣旨によつて、本縣としての生徒指導要録の様式を定めたのであるが、様式が一定されても、その記入法において、区々であつては、その効果が認められないので、様式の各項目に當つての解説をする必要から作られたのが本手引書である。各學校では、本手引書の精神を基として、各學校の特殊性も考慮の上、慎重に記入法を研究される事を切望するものである。

なお、在來の様式の指導要録の各欄の記入に際しても、本手引書の該当項目の精神をよくとり入れて頂きたい。時恰も学年末に當り、各校では生徒指導要録記入完結の時期となつており、新様式の説明という事の他に、その方面のつよい要求をみたすために限られた時間内に、早急の間に本手引書を発刊することゝなつた。そのため、意がつくせず、不十分な点も多い事と思われるが、その点は各位の御意見を得て、更にまとまつたものとしてゆきたく念願している。

なお、評價の方法については、學習指導要領一般編第五章「學習結果の考査」の項を参照されたい。

(付) 記入上の一般的注意

1. 数字はすべて、アラビア数字とする。
2. なるべく横書きとする。(紙面の都合で、無理なところもあるが)
3. 前學年、及び以前の學校との関連を慎重に考慮する。
4. 進学・轉校の場合を考慮して、他の學校の教員にもよくわかるような書き方をする。その學校独特な用語や符号は、つとめて避ける。
5. できるだけ客観的に、かつ平易明快に書く。

第二章 「身上及び出缺調査」欄の記入法

(一) 身上調査欄

- 氏名の上側にふり假名をつける。
- 性別は該当文字を○でかこむ。
- 現住所欄は先ず上段に記入し轉居した場合は上段の文字を横線で抹消して、下段に記入する。
- 續柄は保護者が父又は母の場合には、父(何男)母(何女)の如く記入する。
- 職業は具体的に例えば雜貨商、辯護士等と記入する。
- 學歷欄は幼稚園を除き生徒が今迄に在學した小學校・中學校・高等学校について記入する。

(二) 出缺記録欄

- 授業日数は年間を通算して記入する。但しこの中には生徒が授業を受けなくてはならない日数の外に当然學校に出席せねばならぬ日数を含めること。
- 出席日数は生徒の實際の出席日数を記入する。
- 缺席日数は授業日数から出席日数を差引いた日数を記入する。

- 欠課度数は遅刻・早退等を含めて完全には授業を受けなかつた度数を記入する。
- 欠席の主な理由欄はなるべく詳細に、且つ具体的に記入すること。
なお病欠・事故欠の別がこの欄を見ればわかるように記入する。
- 高等学校においては単位制をとっているために、中學校の出欠欄の日数とある処はすべて時数をもつて記入する。

第三章 「標準検査の記録」欄の記入法

(一) 標準検査の記録は何を目的とするか。

標準化された検査を実施することによつて、その児童生徒の知能が、どのような状態にあるか、その學年に相当する學力をもっているか、どのような性格や性能、従つて個性をもつておるか、を調査記録し、學習、性格、性能、進學、職業等の各方面にわたつて、指導の方向、程度、方法を見出し、さらに指導の結果、如何に向上変化しつつあるかを見出すことが目的である。

(二) 標準検査で何を見出すべきか。

1. 知能検査で見出すべきこと。

イ、児童生徒の能力を判定して、その能力が十分發揮されているかどうか。學習指導の程度はどのようであればよいか。どのように進學や職業指導を行えばよいかを見出すこと。【能力測定】

ロ、グループ學習をさせるために、どのように編成するかの一資料をうること。【備い分け】

ハ、學習上何か問題をもっている児童生徒について、例えば考査成績が相当よいかかわらず頭のよさが見られない、逆に悪いにかかわらず相當した發達をする、さらに成績にかなりむらがあるというような場合に、果して知能があるのかどうかを判定すること。【診断】

ニ、身体の故障や劣等感、家庭の貧困等のために、充分その能力が發揮できない児童（仮現劣等児）を見出すこと。【診断】

ホ、どのような方面に知能がすぐれているか、（例えば記憶力、理解力、構成力、判断力、等の方面を判断すること。）【能力分析】

2. 學力検査で見出すべきこと。

イ、その個人の、學級の、または學校の學習成績が、縣又は地方において、どのような位置にあるかを知ること。【學力評價】

ロ、従つて、どのような方面にすぐれており又は劣つているかというようなことを知ることによつて、どこに長所や欠陥があるか、さらにまた、指導上の片寄りはないかを知ること。【學力診断】

ハ、學力検査と知能検査との結果を比較して、學習が能力に應じて充分になされているかどうかを知ること。【成就検査】

3. 性格検査で見出すべきこと。

イ、その個人の性格や性能、従つて個性がどのようなものであるかを見出して、正しい個性の伸ばし方を考えること。【測定と個性教育】

ロ、その個人が情意の方面で悩んでいるところ（例えば社会不適應性、自己劣等感、情意不安定性等）を見出して正しい順應の仕方を指導してやること。【診断と精神衛生】

ハ、進學や職業について進むべき道を見出すこと。【適性教育】

(三) 現在行われている検査にはどのようなものがあるか。

文は文部省推薦のものを示す

1. 知能検査法

名 称	適用範囲	著 者	標準化年度	発行所名、所在地	備 考	器 号
国民知能検査	8才~14才	渡辺 徹 本田 親二 栗林 宇一	大正11年より 昭和13年まで	東京都千代田区 三崎町日本大學 心理學教室	A式 團體検査	渡辺 國民式
实际的、個別 的知能測定法 (鈴木ビネー 法)	知能年齢 2才2ヶ月より 23才まで	鈴木治太郎	昭和5年	清光堂書房 大阪市住吉区粉 濱町4の62	個人検査	鈴木ビネー
田中B式 知能検査	8才~17才	田中寛一	昭和9	金子書房 東京 都文京区大塚坂 下町155	B式 團體検査	田中 B
田中ビネー 知能検査法	満2才より 成人まで	田中寛一	昭和14~19	世界社 東京都 文京区音羽三丁 目講談社ビル内	個人検査 I.Q.	田中ビネー
田中A式 知能検査	4年~ 高校1年	田中・榊原		金子書房	團體テス ト言葉使用	田中A式
青少年 知能検査	6年~中學校	古賀行義		廣島市 文心堂	團體テス ト言葉不 使用	古賀 青少年式
知能検査第一 (鈴木信篇)	12~14	鈴木 信	昭3~9	泰流社 東京都 千代田区神田神 保町1の28	團體検査 標準段階	鈴木 第一式
A式團體 知能検査	7~成人	石川七五三二	昭23	同上	A式團體 検査 偏差値	石川A式高
B式知能検査	6~成人	石川七五三二	昭12	富士書店 東京都練馬區下 石神井二丁目	偏差値	石川B式
集團的 知能検査法	14~成人	鈴木治太郎	昭22	清光堂書房	評点 B式検査	鈴木集團
腦研式標準知 能検査(甲)	12才以上	東大医学部 附属腦研究室		南山堂 本郷・若木町	点数	腦研式
高學年用A式 團體知能検査	小 學 校 中 學 校 4年~9年	武政太郎他 (前出三氏)	昭23	金子書房	I.Q.	武政高學年
高等學校用 團體知能検査	高等學校	後藤岩男 岡 本		金子書房	團體テス ト	後藤高校式

2. 適性検査

文 文部省篇 一般職業適性 検査	中学2年 ~成人	文 部 省	昭24	日本職業指導協 会 東京都千代 田區大手町1の7	紙と鉛筆 を主とし 二種の器 具併用	文部省 一般職業
文 標準一般職業 適性検査	同	日本職業指 導協會	同	日本職業指導協 会 東京都千代 田區大手町1の7	器具によ る	職指一般 職業

大阪能研式 適材配置適性 検査法	不詳	大阪府立産業 能率研究所	昭16			大阪能研式
適性検査	12~34	鈴木信	昭11	過去において山 越工作所で発賣 していた	現在入手 不能	鈴木適性
厚生省推せん 縣教育研究所	5年~高校成 人性能検査			松山市役所教育 課にて製作標準 尺度	器具使用	鏡寫検査 打叩

3. 學力検査

社會科テスト	小學1年~ 中學3年	愛媛縣教育 研究所	未発表	愛媛教育研 究會	愛研式社會
算数科 //	//	//	//	//	// 算数
國語科 //	//	//	//	//	// 國語
理科 //	//	//	//	//	// 理科

※高等学校の學力検査は順次発行される豫定。

4. 性格検査

向性検査(自己評定 及他人評定)		淡路内治郎 岡部彌太郎	昭5年6年 昭18年	泰流社	淡路式向性
田中式向性検査		田中寛一	昭13年	金子書房	田中向性
環境性格評定尺度		牛島義友	昭19年	//	牛島環境
情意不安定性テスト (教育診断学)		大伴茂	大正15 昭2		大伴情意
クレベリン内田作業 素質検査	一般(加算能 力あるもの)	内田勇三郎	1924 大正13	金子書房 其他	内田クレベ リン
性格検査		牛島義友	昭19	金子書房	牛島性格
人格適應性質問用紙		渡辺徹 (安藤・大村)	昭24		渡辺式適應
適應性診断テスト	5年~中學	長島貞友 山崎正	//	金子書房	長島適應
社會生活能力検査		牛島義友	//		牛島社會
興味形テスト		石川七五三二			石川興味
環境性格簡易評定尺 度		牛島義友	昭19	金子書房	牛島環境 簡易
三宅式性格徵表豫診 法	4年~成人	三宅鉦一	精神病質人格類 型の研究から		三宅式性格
小野島式個性調査	1年~中學校	愛媛縣教育 研究所	個別觀察票 尺度なし	愛媛教育研 究會	小野島式個 性
職業興味検査	5年~中學校	近畿教育研 究會	生活に現れた職 業的興味		近畿式職業 興味
職業興味調査	中學1年~ 成人	文部省			近く発行

(四) 標準検査を実施するにはどのような点に注意したらよいか。

1. いつ実施したらよいか。

1. 計画的に実施するには、中、1.2.3年、高、1.2.3年の各學年にて行うのがよい。しかし費